



シスメックス

サステナビリティデータブック 2019

目次

経営とCSR

CSRマネジメント	2
マテリアリティ	6

社会

製品・サービスを通じた医療課題解決	14
責任ある製品・サービスの提供	19
魅力ある職場の実現	28
人権の尊重	41
社会貢献活動	43

環境

環境への配慮	48
--------------	----

ガバナンス

コンプライアンス	63
リスクマネジメント	69

社外からのCSR評価	71
------------------	----

2018年度実績データ

環境データ	74
第三者保証	80
社会性データ	81
ガバナンスデータ	84

情報開示体系／編集方針	86
-------------------	----

基本的な考え方・体制

担当役員メッセージ

優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）への取り組みを通じ、持続可能な社会の実現に貢献します

気候変動などの環境問題、ハラスメントや差別などの人権問題といった社会課題の解決に対する企業の社会的責任が問われる中、21世紀に入りさまざまな企業でCSR活動への積極的な取り組みが始まりました。2015年には「持続可能な開発目標（SDGs）」が国連で採択され、グローバルで課題解決への取り組みが進められています。企業は売上や利益などの業績を上げることで企業としての持続的な成長を目指すとともに、ESGを重視した企業経営を推進することも重要になっています。

このような社会の変化を踏まえて、シスメックスでは、ESGの観点から優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定し、グループ中期経営計画に非財務目標を設定するとともに、課題展開して取り組みを推進しています。シスメックスの事業そのものが社会課題解決に貢献しており、製品・サービスを通じた医療課題の解決や、責任ある製品・サービスの提供はもちろんのこと、製品ライフサイクルにおける環境配慮や、事業所運営における環境負荷低減にも積極的に取り組んでいます。

あらゆる企業活動において、社内外での積極的な双方向コミュニケーションを推進し、ステークホルダーの皆様からの信頼を獲得するとともに、企業価値の向上と一層の取り組みを推進していきます。



取締役 専務執行役員 CFO
中島 幸男

基本的な考え方

シスメックスのCSRは、グループ企業理念である「Sysmex Way」の実践を通じて、ステークホルダーの皆様には「安心」をお届けすることです。

「Sysmex Way」は、企業活動の最も基本的なあり方を示したもので、シスメックスが社会に貢献し、そして成長し続けるために必要なMission、Value、Mindの3つの要素で構成しています。Missionでは、創業から取り組んできた検体検査分野を事業の核としながら、より広く、より深く人々の健康に関わるヘルスケアの領域での進化に挑戦し、豊かで、健やかな、喜びに満ちた社会づくりに貢献していくことを表明しています。

さらにSysmex Wayの「行動基準」では、お客様、従業員、取引先、株主様、社会というステークホルダーの皆様に対する具体的な提供価値を明確にしています。例えば、社会に対しては、法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の皆様には安心をお届けしていくことや、環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会とともに取り組むことを大切にしています。

▶ [企業理念・行動基準についてはこちらをご覧ください。](#)

CSRマネジメント体制

シスメックスは、CSR活動の企画・立案および推進、社内外へのCSR情報発信などを行う専任部署としてCSR・環境推進部を設置し、取締役 専務執行役員の管理・統括の下、活動を推進しています。

グループ中期経営計画（2019-2021年度）では、マテリアリティに紐づく非財務目標を設定し、CSR活動を経営の中に明確に位置付けました。非財務目標は各部門の実行計画・活動に展開され、進捗は経営会議で報告し、目標の見直しや新たな施策の検討などを行い、PDCAサイクルを回します。

国連グローバル・コンパクト

シスメックスは、CSRへの取り組みを積極的に推進していくために、2011年2月、「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。マテリアリティの特定やCSR活動の推進にあたっては、国連グローバル・コンパクトの10原則や、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」などを参照しています。



国連グローバル・コンパクト



持続可能な開発目標（SDGs）のロゴ

- ▶ 「持続可能な開発目標（SDGs）」と優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）との関連性についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 国連グローバル・コンパクトの10原則はこちらをご覧ください。 [🔗](#)

ステークホルダーとの関わり方

ステークホルダーとのコミュニケーション

シスメックスは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、事業活動がステークホルダーの要請や期待に込んでいるかを検証し、その結果をあらゆる事業活動に反映させています。

2018年度の主な対話実績

お客様との対話

- お客様満足度調査を各地域で実施
- 学術セミナーを各地域で開催
- 製品の正しい知識を伝えるユーザーグループミーティングを各地域で開催
- お客様のフィードバックを取り入れたカスタマートレーニングプログラムを各地域で開催

▶ 詳細については「責任ある製品・サービスの提供」をご覧ください。

従業員との対話

- 従業員アンケート、インタビューの実施
- 全社員を対象としたキャリア設計に関する希望調査の実施（自己申告制度）^{※1}
- 労働組合との対話を実施^{※2}

※1 シスメックス株式会社

※2 シスメックス株式会社、シスメックス 上海、済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス ベトナム、シスメックス タイ、ハイフェンバイオメッド

▶ 詳細については「魅力ある職場の実現」をご覧ください。

取引先との対話

- サプライヤー説明会の開催
- 販売代理店会議の開催

▶ 詳細については「責任ある製品・サービスの提供」をご覧ください。

株主・投資家との対話

- 定時株主総会および株主懇談会を開催
- 機関投資家・アナリスト向けの決算説明会、技術説明会を開催
- 個人投資家向けの会社説明会、会社見学会を開催

▶ 詳細については「IR資料室」をご覧ください。

地域住民との対話

- 神戸マラソンに協賛、従業員ボランティアによる大会運営支援
- 研究開発拠点「テクノパーク」で地域交流イベントを開催
- 世界各地での社会貢献活動を通じて地域住民との対話を実施

▶ 詳細については「社会貢献活動」をご覧ください。

ステークホルダーダイアログの実施

〈創立50周年記念事業〉未来プロジェクト「MIRAI LABO」

シスメックスは2018年に創立50周年を迎えました。節目となるこの年に、記念事業の一つとして世界各地で働く従業員が参加する「未来プロジェクト MIRAI LABO」を実施しました。

MIRAI LABOでは、「Sysmexの未来に向けたチャレンジ『Workplace Communication』」をテーマに、「5～10年後の未来を見据えた仕事とシスメックス」「グループ全体のコミュニケーション活性化のアイデアとチャレンジ」について、自分自身の役割も含めたディスカッションを行いました。さまざまな意見・提案は、50周年をきっかけに開設した社内SNSを通じてグループで共有し、双方向コミュニケーションが生まれました。

今後も、部門間交流や勉強会、社内SNSの活用により、職場でのコミュニケーション活性化を図っていきます。

ディスカッションの様子



特定したマテリアリティ

シスメックスのマテリアリティ

2017年5月、シスメックスでは、持続可能な社会の実現および当社の持続的な成長に向けて、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定しました。特定したマテリアリティは、具体的なアクションプランに展開し取り組みを進めています。

▶ マテリアリティの検討（特定プロセス）についてはこちらをご覧ください。

シスメックスのマテリアリティ

マテリアリティ	GRIスタンダード関連側面	関連するSDGsの目標
<p>製品・サービスを通じた医療課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活動を通じた医療課題解決 製品の普及等による医療アクセスの改善 	<ul style="list-style-type: none"> 間接的な経済的インパクト 地域コミュニティ 	  
<p>責任ある製品・サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 品質・安全性の確保 製品・サービスに関する適切な情報開示 サプライチェーンの評価・管理 	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤーの環境評価 サプライヤーの社会的評価 顧客の安全衛生 製品およびサービスのラベリング 	 
<p>魅力ある職場の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境の確保 人材の育成 ダイバーシティの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用 研修および教育 多様性と機会均等 	 
<p>環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品ライフサイクルにおける環境配慮 事業所活動における環境負荷低減 	<ul style="list-style-type: none"> 原材料 エネルギー 水 大気への排出 排水および廃棄物 	   
<p>ガバナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 倫理と誠実性 ガバナンス 環境コンプライアンス 腐敗防止 反競争的行為 社会経済コンプライアンス 	 

製品・サービスを通じた医療課題解決

<なぜ重要か>

近年、先進国では高齢化を背景として、増加する医療費の削減や健康寿命の延伸に関するニーズが高まっています。一方、新興国・開発途上国では、人口の増加に医療インフラの整備が追いついておらず、世界で4億人の方が必要な医療を受けられない状況にあり[※]、医療サービスの利用可能性の向上が課題となっています。また、「持続可能な開発目標（SDGs）」では、人々の健康や福祉に関する目標が掲げられ、医療課題解決に向けたグローバル企業の取り組みへの期待はますます高まっています。

これらの状況を踏まえ、疾病の予防や早期発見、治療方針の決定に重要な役割を果たす検体検査領域では、価値の高い検査や診断技術の創出、世界三大感染症（HIV/AIDS、結核、マラリア）をはじめとする医療課題の解決が期待されています。シスメックスはこれらの課題に取り組むことで、医療の発展と人々の健やかな暮らしの実現に貢献すると同時に、新たな技術や新規市場の創出によるビジネス機会の獲得と、持続的な成長を実現できると考えています。

※ 出典：WHO “[Universal Health Coverage](#)”

<アプローチ>

シスメックスは創業以来、検査ニーズに応じた製品ラインアップの拡充や正確で迅速な検査データの提供に取り組んできました。さらに近年は、個別化医療の実現に向けた遺伝子検査など、早期発見・早期治療につながる先進的かつ価値の高い検査や診断技術創出のための研究開発を行っています。加えて、新興国・開発途上国の医療アクセス向上に向けて、現地の検査室の品質向上や医療従事者への教育活動の推進など、医療水準向上を目指した事業活動を推進しています。

今後もこれまで培ってきた独自の技術やグローバルネットワークを活かして、医療の発展とともに人々の健やかな暮らしへの貢献を目指した取り組みを進めていきます。

▶ [製品・サービスを通じた医療課題解決に関する活動実績は、こちらをご覧ください。](#)

責任ある製品・サービスの提供

<なぜ重要か>

品質・リコール問題などによって、製品・サービスの品質および安全性に対する社会からの要請が高まっており、また、企業の責任範囲は取引先を含めたサプライチェーン全体に拡大しています。さらに、「持続可能な開発目標（SDGs）」では持続可能な製造責任や労働環境に関する目標が掲げられています。

シスメックスは、人々の生命と健康に携わる医療業界で事業を展開する企業として、製品・サービスの品質・安全性を高め、適切にサプライチェーンを管理することは、医療の質向上に貢献するとともに、お客様満足を高めブランド力強化につながる重要な活動であると考えています。

<アプローチ>

シスメックスは、グローバルな品質マネジメントシステムを構築することで、継続的な品質の維持・向上を図っています。また、きめ細かなサービス&サポート、お客様からの声を製品開発や品質改善に活用するしくみ（VOC：Voice of Customer）の構築、最新の学術情報の提供など、お客様満足向上に向けた取り組みを行っています。さらに、グローバルに事業を展開する企業として、安定的に製品をお届けする体制を強化するとともに、CSRに配慮した調達活動を推進し、取引先とともに持続的に発展することを目指しています。

今後も責任ある製品・サービスの提供を通じてステークホルダーの皆様からの信頼を獲得し、安心をお届けしていきます。

▶ [責任ある製品・サービスの提供に関する活動実績は、こちらをご覧ください。](#)

魅力ある職場の実現

<なぜ重要か>

企業が持続的に成長するために、優秀な人材の確保は不可欠であり、それを実現するにはダイバーシティの推進や働きやすく働きがいのある魅力ある職場づくりが必要です。また、「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、ジェンダーの平等や、働きがい、不平等の是正などの目標が掲げられています。

シスメックスは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つと捉え、魅力ある職場づくりを進めることが優秀な人材を惹き付け、企業競争力の強化につながると考えています。

<アプローチ>

シスメックスは、人材開発体系を用いた継続的・計画的な能力開発や、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、各種制度の導入などを通じて、多様な人材が安心して能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。

今後も、持続的な成長の実現に向けて、多様な人材が能力を最大限に発揮できる職場づくりを進めるとともに、個々の成長の機会を提供していきます。

▶ [魅力ある職場の実現に関する活動実績は、こちらをご覧ください。](#)

環境への配慮

<なぜ重要か>

気候変動の緩和をはじめ、水資源・鉱物資源などの資源利用、生物多様性の保全など、地球環境の持続可能性は喫緊の課題となっています。また、パリ協定の発効や「持続可能な開発目標（SDGs）」などにも見られるように、環境問題は全世界で取り組むべき重要課題であり、とりわけ企業が果たす役割への期待が高まっています。

シスメックスはグローバルに事業を展開する企業として、深刻化する地球環境問題への対応を優先的に取り組むべき課題の一つと認識しています。気候変動による大規模な自然災害などは原料調達や製造機能の停止など経営上の重要なリスクと捉えるとともに、環境への配慮は地域社会との共生やステークホルダーからの信頼確保につながると考えています。

<アプローチ>

シスメックスは、長期的な環境マネジメントの指針として、シスメックスグループ長期経営目標の策定にあわせて、2025年を最終年度とする「シスメックス・エコビジョン2025」を策定し、製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体における環境保全を推進しています。

今後も、持続的な成長と、重要な社会課題である環境負荷低減の両立に努めていきます。

▶ [環境への配慮に関する活動実績は、こちらをご覧ください。](#)

ガバナンス

<なぜ重要か>

ガバナンスの欠如による企業不祥事や、それに伴う社会的影響は大きくなっており、2015年6月には、企業に対して財務的側面だけでなく非財務的側面にも配慮した事業活動を行うことを求める「コーポレートガバナンス・コード」が施行されました。

シスメックスにおいても、ガバナンスおよび内部統制の強化や、経営の基盤強化に向けたコンプライアンスおよびリスクマネジメント体制の強化は、事業リスクの低減、ステークホルダーからの信頼の確保、ひいては中長期的な企業価値向上につながる重要な経営課題の一つと考えています。

<アプローチ>

シスメックスは、監査等委員会の設置や社外取締役による監督機能強化、取締役会の実効性向上などのガバナンスの強化を進めています。あわせて、コンプライアンス委員会や内部通報制度の設置、グループ全体でのリスクマネジメント機能強化に向けた体制の整備など、持続的な成長に向けた基盤強化に取り組んでいます。

今後も、経営の健全性、透明性を高め、経営スピードおよび経営効率を向上させることで、グループ全体の企業価値の最大化を目指してまいります。

▶ ガバナンスに関する活動実績は、こちらをご覧ください。

非財務目標 (KPI)

グループ中期経営計画（2019-2021年度）では、マテリアリティに紐づく非財務目標を設定し、CSR活動を経営の中に明確に位置付けました。非財務目標は各部門の実行計画・活動に展開され、進捗は経営会議で報告し、目標の見直しや新たな施策の検討などを行い、PDCAサイクルを回します。

マテリアリティ		KPI	定義	2021年度 目標値	2025年度 目標値 (エコビジョン)
製品・サービスを通じた医療課題解決	事業活動を通じた医療課題解決	ヘマトロジー市場シェア	ヘマトロジー（血球計数）分野における機器・試薬・サービスの市場規模に対する連結売上高比率	※2	—
		特許保有件数	特許、実用新案、意匠の保有件数の合計	※2	
		特許出願件数	特許、実用新案、意匠の出願件数の合計	※2	
		学術論文数	当社製品を用いてユーザーから発表された学術論文数	※2	
	製品の普及等による医療アクセスの改善	新興国売上高比率	連結売上高における新興国の売上高比率	※2	
責任ある製品・サービスの提供	サプライチェーンの評価・管理	CSR調査数	CSR調査に回答した取引先数の割合	※2	

マテリアリティ		KPI	定義	2021年度 目標値	2025年度 目標値 (エコビジ ョン)
魅力ある職場の実現	働きやすい職場 環境の確保	エンゲージメント スコア	企業風土調査結果	75%	—
		離職率 ^{※1}	定年退職を除く、正社 員のみの離職率	※2	
		労働災害度数率 ^{※1}	のべ労働100万時間あ たりの死傷者数の割合	0.35%未満	
		労働災害強度率 ^{※1}	のべ労働1000時間あ たりの労働損失日数の 割合	0.05%未満	
	ダイバーシティ の推進	女性マネジメント 比率	課長級以上の女性比率	16.0%	
	人材の育成	平均教育時間	人事部門が提供する研 修を対象とした従業員 一人あたりの平均研修 時間	25.0時間	
環境への配慮 *エコビジョン2025 より 基準年度：2016年度	製品ライフサイ クルにおける環 境配慮	CO ₂ 排出量の削減率 (機器製品使用時)	機器1台あたりのCO ₂ 排出量の削減率	10%削減	15%削減
		水消費量の削減率 (機器製品使用時)	機器1台あたりの排水 量の削減率	10%削減	15%削減
		CO ₂ 排出量の削減率 (出荷物流)	単体売上高あたりの出 荷物流に伴うCO ₂ 排出 量の削減率	10%削減	15%削減
	事業所活動におけ る環境負荷低減	CO ₂ 排出量の削減率 (事業活動)	連結売上高あたりの事 業活動に伴うCO ₂ 排出 量の削減率	10%削減	50%削減
		水消費量の削減率 (事業活動)	連結売上高あたりの事 業活動に伴う水消費量 の削減率	10%削減	15%削減
		リサイクル率	廃棄物総排出量あた りのリサイクル排出量	88%以上	93%以上
ガバナンス	コンプライアンス	内部通報件数	同左	※2	—
		倫理違反件数	法律に違反した事象 およびグローバルコン プライアンスコード違 反があったとして制裁 処分が科された事象の 件数	※2	

※1 対象：シスメックス株式会社単体

※2 目標値は設定せずモニタリング指標として設定

マテリアリティの検討

マテリアリティの特定プロセス

以下の手順に従って、優先的に取り組むべき課題（マテリアリティ）を特定しました。また今後、国際社会の最新動向や事業環境の変化などをふまえ、必要に応じてマテリアリティの見直しを行います。

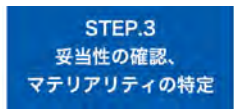
マテリアリティの特定プロセス



GRIガイドライン(G4)、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」、ISO26000などの国際的ガイドラインや、サステナビリティ評価機関の調査内容などから社会の要請事項の分析を行い、シスメックスのCSR活動の現状と照らしあわせて、関連側面を抽出・識別しました。

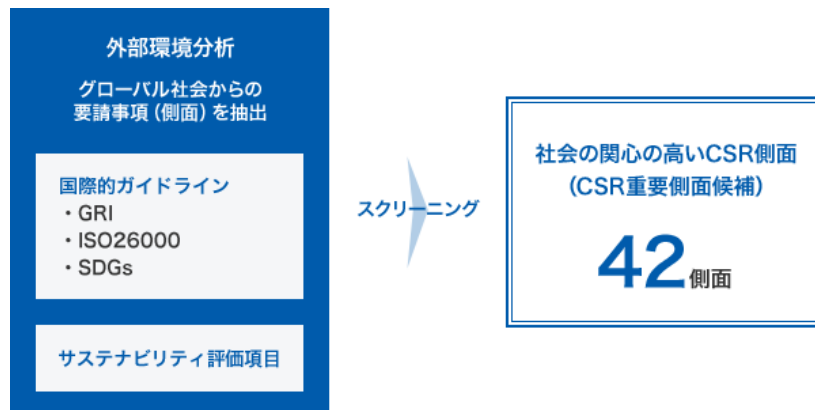


STEP.1で識別した関連側面を「自社のステークホルダーにとっての重要度（ステークホルダーの意思決定への影響の大きさ）」と、リスク・機会の観点による「シスメックスにとっての重要度（自社が経済、環境、社会に与える影響の大きさ）」の2軸で総合的に評価し、優先的に取り組むべき最重要側面を抽出しました。



STEP.2の結果を整理したマテリアリティを、代表取締役が議長を務める経営会議で審議し、承認を得ました。

STEP.1 課題の把握・整理



STEP.2 優先順位付け

シスメックスの事業活動は、バリューチェーンを通じて社会へさまざまな影響を与えています。当社グループはその影響を「自社のステークホルダーにとっての重要度」と、リスク・機会の観点による「シスメックスにとっての重要度」の2軸で総合的に評価し、優先的に取り組むべき最重要側面を抽出しました。バリューチェーン全体にわたり、CSRの取り組みを推進することで社会に貢献していきます。





研究開発

認識している社会課題・当社への期待

先進国における高齢化を背景とした医療費削減・健康寿命の延伸や、新興国・開発途上国の人口増加に対応可能な医療インフラの整備・医療サービスの利用可能性が課題となっています。研究開発により、このようなさまざまな医療課題解決への貢献が必要と考えています。

主なCSRの関連側面[※]

- 事業活動を通じた医療課題解決
- 製品の普及等による医療アクセスの改善
- 品質・安全性の確保
- 製品ライフサイクルにおける環境配慮



調達

認識している社会課題・当社への期待

企業の責任範囲は拡大し、原材料の品質だけでなく、人権、労働慣行、環境に配慮した調達が求められています。取引先と一体となった責任ある製品・サービスの提供が重要であると考えています。

主なCSRの関連側面[※]

- 品質・安全性の確保
- サプライチェーンの評価・管理
- コンプライアンス
- 製品ライフサイクルにおける環境配慮



製造

認識している社会課題・当社への期待

近年、品質・安全性に関する社会からの要請はさらに高まり、徹底した法令や規格の遵守、品質の高さ、安全性の確保が重要であると考えています。

主なCSRの関連側面[※]

- 品質・安全性の確保
- 事業所活動における環境負荷低減
- 製品ライフサイクルにおける環境配慮
- コンプライアンス



物流

認識している社会課題・当社への期待

物流効率の改善によるGHG排出量削減やリサイクル率向上など、環境問題への対応が必要であると考えています。

主なCSRの関連側面[※]

- 製品ライフサイクルにおける環境配慮



販売

認識している社会課題・当社への期待

グローバル企業として、医療課題を抱えている国や地域へ事業を展開し、課題解決へ貢献することが求められています。また、お客様満足向上の取り組みや適切な情報開示、安定的な製品供給などを通じて、お客様と長期的な信頼関係を構築することが重要であると考えています。

主なCSRの関連側面[※]

- 事業活動を通じた医療課題解決
- 製品の普及等による医療アクセスの改善
- 製品・サービスに関する適切な情報開示
- コンプライアンス



サービス&サポート

認識している社会課題・当社への期待

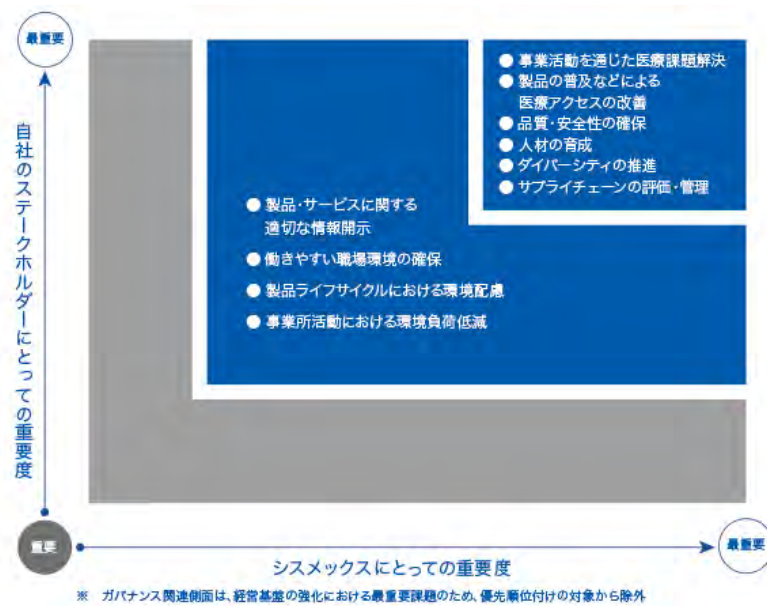
お客様満足向上の取り組みやグローバルかつタイムリーな品質情報の収集、不具合への対応、不具合情報や是正処置・予防処置のグローバルな共有などを通じて、お客様と長期的な信頼関係を構築することが重要であると考えています。

主なCSRの関連側面[※]

- 事業所活動における環境負荷低減
- 製品・サービスに関する適切な情報開示
- コンプライアンス

※ CSRの関連側面：GRIガイドライン(G4)、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」、ISO26000などの国際的ガイドラインや、SRIなどの評価機関の調査内容などから社会の要請事項の分析を行い、シスメックスのCSR活動の現状と照らしあわせて抽出した側面のことです。

シスメックスのマテリアリティマトリックス



STEP.3 妥当性の確認、マテリアリティの特定

STEP.2の結果を整理したマテリアリティを、代表取締役が議長を務める経営会議で審議し、承認を得ました。

▶ 特定したマテリアリティはこちらをご覧ください。

製品・サービスを通じた医療課題解決 事業活動を通じた医療課題解決

さまざまな技術の融合を生み出す研究開発体制

シスメックスは、遺伝子・タンパク・細胞を分析対象とした技術プラットフォームを開発し、これらを多角的に活用して、患者さんに役立つ新たな検査・診断技術を創出します。研究開発の中核拠点であるテクノパークでは、多彩な分野の研究者および技術者が連携・協働し、お客様のニーズにお応えする機器、試薬、ソフトウェアの研究開発に取り組んでいます。2019年4月にはバイオ診断薬拠点「テクノパーク イーストサイト」を開設し、そのうちの施設「バイオポート」では、診断薬の原材料開発、診断薬の分析機能を有し、診断薬の高機能、高品質化に加え、開発のスピードアップに貢献します。また、米国やドイツなどにも研究開発拠点を設置し、グローバルな研究開発体制を構築しています。

さらに、オープンイノベーションにより、国内外の研究機関や大学、医療機関とのコラボレーションを促進しています。その一環として、テクノパーク内に社外の研究者との共同研究開発を行うオープンイノベーションラボを設置し、個別化医療の実現に向けた研究開発を進めています。

- ▶ 「研究開発体制」の詳細についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 「オープンイノベーション」についてはこちらをご覧ください。

がんゲノム医療の取り組み

近年がん治療では、確定診断に加え、薬剤の効果予測や再発モニタリングなどを目的に、遺伝子やタンパク質を用いた多くの検査が行われています。なかでも、がんクリニカルシークエンシング検査は、がん組織中の数百からなる複数の遺伝子を一度に測定し、その患者さんのがん固有の遺伝子異常を網羅的に解析（プロファイリング）し、がんの診断や治療、抗がん薬の選定に役立つ有用な情報を提供することが可能となります。

シスメックスは、国立研究開発法人国立がん研究センターと共同で開発したがんゲノムプロファイリング検査用システム「OncoGuide™ NCCオンコパネル システム」が、先駆け審査指定品目として厚生労働省より指定を受けた後、日本で初めて製造販売承認を取得しました。2019年1月に発売し、理研ジェネシスによるアッセイサービス（受託解析サービス）を開始しました。また、がんゲノムプロファイリング検査用システムとして、日本で初めて2019年6月1日付で保険適用を受けました。今後は、保険診療下で検査が可能となり、より多くのがん患者さんに対して受診機会が拡大することが期待されます。

患者さんの負担を軽減する検査の提供

血友病は凝固因子が不足し止血異常を引き起こす疾患で、診断、治療モニタリングには凝固因子の定量検査が必要です。従来から広く実施されてきたAPTT^{※1}試薬を用いる検査では、用いる試薬の種類によって測定値が一致しないケースがあることが知られており、近年は合成基質法による検査が求められています。また合成基質法は、静脈注射の回数が減ることで患者さんへの負担軽減が期待される「半減期延長血液凝固因子製剤」^{※2}の投与後モニタリングにおいても臨床的有用性が示されています。

シスメックスは、血友病Aの診断・治療補助として用いられる凝固第VIII因子測定キット「レボヘムFVIII 合成基質」に続き、血友病Bの診断・治療補助として用いられる「レボヘムFIX 合成基質」を2018年12月に販売を開始しました。「レボヘムFIX 合成基質」は、合成基質法を測定原理とした血漿中の凝固第IX因子測定キットとしては国内で初の市場導入となります。本製品を通じた検査の質向上と患者さんの負担軽減に貢献します。

また、血管などに詰まったコレステロールを肝臓に運び回収するHDL（High-density Lipoprotein）機能の測定は、これまで手法が煩雑で測定値が一致しないことや検査日数を要するなど、検査結果の安定性・迅速性に課題がありました。シスメックス



レボヘムFIX 合成基質

は、神戸大学大学院医学研究科「立証検査医学（シスメックス）分野」と共同研究を進め、HDL機能評価の新たな測定法を構築し、自社のプラットフォームである「研究用全自動高感度免疫測定装置 HI-1000」を用い自動化することにより、約30分でHDL機能の評価を可能としました。2018年12月から研究受託サービスとして、「HDL機能測定（研究用）」の提供を開始しており、このサービスを通じて、HDLを対象とした創薬研究や疫学研究など幅広い臨床エビデンスの蓄積と、動脈硬化関連疾患における新たな診断、治療法の創出に貢献します。

※1 APTT（Activated Partial Thromboplastin Time：活性化部分トロンボプラスチン時間）とは、内因系凝固因子の活性・異常を判定する際に用いられる検査項目。外因系凝固因子の活性・異常を判定するPT（プロトロンビン時間）とともに止血機能のスクリーニング検査に用いられる。

※2 半減期延長血液凝固因子製剤とは、従来の血液凝固因子製剤よりも血漿中消失半減期が延長されており、3～5日間隔の定期的な投与や、患者の状態によっては週1回の投与も可能となり、従来よりも静脈注射の回数が減ることで患者さんへの負担軽減が期待される。

ITを活用した医療環境の改善

シスメックスは、新たなネットワークソリューション「Caresphere™（ケアスフィア）」の提供を2018年3月より開始しました。

「Caresphere™」は、IoTやクラウドを活用して、検査装置や臨床検査情報システムなどで管理しているさまざまな情報をリアルタイムに連携・解析する、シームレスかつ安全でグローバルに標準化されたプラットフォームです。本プラットフォーム上で、病院の検査室や検査センターにおける効率的な運営や品質管理の強化に役立つ情報が一元的に管理され、フレキシブルに情報を抽出・可視化することができ、業務効率化、品質強化、患者さんの満足度向上などを支援します。

また将来的には、地域医療に携わる施設やそれらの施設で従事する幅広い医療従事者の方向けアプリケーション・サービスの展開も予定しており、臨床検査および医療全体の生産性・品質向上に貢献することを目指しています。

- ▶ [新たなネットワークソリューション「Caresphere™」についてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [「ITを活用したソリューションの提供」についてはこちらをご覧ください。](#)

製品・サービスを通じた医療課題解決

製品の普及等による医療アクセスの改善

世界には貧困問題や、医療環境・医療制度・医療供給システムの未整備などにより、適切な医療を受けることが困難な地域が存在します。

シスメックスは、グローバルに事業を展開する企業が果たすべき責務の一つとして、一人でも多くの方が適切な医療を受けられるよう、医療アクセスの改善に向けた取り組みを進めています。

三大感染症への取り組み

三大感染症と呼ばれる、HIV/AIDS、結核、マラリアは、多数ある感染症の中でも世界規模で長期にわたり流行している感染症で、毎年約300万人もの命を奪います。近年、治療薬やワクチンの普及により、感染規模は縮小しつつありますが、経済的理由や社会的・文化的な背景により、貧しい方や社会的に弱い立場におかれた方にまで予防・治療の医療サービスが届いていないのが現状です。また、健康を害することは、労働力の減少や、生産性の低下、医療費の増大などにつながり、経済成長にも影響を及ぼします[※]。

シスメックスでは、これまで培ってきた臨床検査における検出技術を活かし、診療の判断材料に寄与する製品の開発を進めるとともに、産官学と連携した取り組みを推進することで、三大感染症の解決に貢献していきたいと考えています。

※ 出典：グローバルファンド日本委員会／三大感染症を知る

新興国・開発途上国におけるHIVの診断や治療の質向上への貢献

HIV感染者数は、アフリカを中心として、世界で3,690万人に上ります^{※1}。これらのHIV感染者への治療方針確定や、治療効果のモニタリングなどにおいては、CD4陽性リンパ球の数や比率を調べる検査が重要な役割を果たしています。

シスメックスは、シスメックス パルテックが開発・製造するCD4陽性リンパ球検査システム「CyFlow™ Counter System」を新興国や開発途上国で提供しています。このシステムは、血液中のCD4陽性リンパ球の数と比率をわずか3分で測定し、小型・ポータブル式であることに加え、メンテナンスを簡略化するなど、簡便かつ迅速、安定的な検査を支援します。

2018年8月に「CyFlow™ Counter System」はWHOによる事前認証（Prequalification）^{※2}を取得しました。WHO事前認証は、医療機器や医薬品など資源の限られた国々で安心して使用できるようにするために、WHOが性能を担保していることを示す認証制度です。この認証取得を機に、医療資源が限定される国や地域への導入をさらに推進し、新興国や開発途上国におけるHIVの診断や治療の質向上に貢献していきます。

※1 出典：Number of people (all ages) living with HIV (WHO, 2017)

※2 医薬品・検査・ワクチン等のヘルスケア製品を資源の限られた国々で安心して使用できるようにするため、WHOが品質や安全性、効能などを担保していることを示す認証制度。2001年にHIV/AIDS用の医薬品向けに制度が開始され、現在では新興国・開発途上国が物品調達時に参照するリストとして使われたり、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(Global Fund)をはじめとした基金団体がこの事前承認を受けた製品を優先的に選択している。

<http://www.who.int/topics/prequalification/en/> 



CyFlow™ Counter

マラリア排除に向けた取り組み

三大感染症の一つであるマラリアはここ数年減少傾向にあります。世界で毎年約2億人が感染し、約44万人が死亡しており^{※1}、死亡者数の9割以上を占めるアフリカでは、5歳未満の子どもの命が2分間に1人のペースで奪われています^{※2}。

シスメックスはマラリア排除に向け、自社の事業分野である検査・診断領域において、医療へのアクセスを改善するための活動を推進しています。

2019年4月にヘマトロジー分野の新製品「Automated Hematology Analyzer XN-31」が、欧州IVD指令に適合してCEマークを取得し、欧州において順次発売予定です。従来のマラリア検査では、顕微鏡や迅速診断キットが用いられていましたが、15分から30分の時間がかかること、また顕微鏡検査には熟練の技術を要することが問題でした。それに対してXN-31は、マラリア原虫等感染赤血球の有無を約1分で迅速に測定することができます。また、その感染赤血球数の定量やマラリア原虫などの種類を示唆する情報を提供することも可能です。南アフリカ・インドで行った臨床評価においては高い感度および特異度を得ており、臨床用途としてマラリアの診断補助に活用可能^{※3}です。今後、各国での薬事承認取得に向けた活動を推進し、マラリアまん延地域や、マラリアの流入防止に取り組む先進諸国へ広く導入することで、世界におけるマラリア排除（マラリア・エリミネーション）に貢献します。

また、2016年より産官学によるマラリア・コンソーシアムに参画し、「血液検査」分野における役割を担っています。マラリア・コンソーシアムは2018年4月、アジア・アフリカにおける「マラリア・エリミネーションに向けたわが国発のP3（Public-Private Partnership）」を日本政府に提案し、日本企業の技術を結集してマラリア・エリミネーションを目指しています。

※1 出典：「WHO World Malaria Report 2018」

※2 出典：Malarianomore.org.uk

※3 本結果のみで診断を行うことはできません。その他の臨床情報を用いた医師の総合的な判断により確定診断がなされます。



マラリア・コンソーシアムによるイニシアチブ

グローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」に参画

シスメックスは、「開発途上国の人々が感染症による苦難を乗り越え、先進国と同様に繁栄と長寿社会を享受できる世界を目指す」を活動のビジョンとする公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）に2015年より参画しています。GHIT Fundの活動は第2期目（2018～2022年）に入り、当初の「製品開発」から「その製品を必要としている人々へ届ける活動」にシフトしています。当社も引き続きGHIT Fundの第2期の活動に参画し、日本発の技術革新による新たな感染症診断薬の開発・提供に向けた取り組みを推進し、開発途上国における感染症撲滅に貢献していきます。

現地の医療水準の向上を支援

シスメックスでは、医療インフラの整備や医療水準向上の一環として、アジア数カ国で外部精度管理支援などの臨床検査の質向上のための活動を行っています。またアフリカでは外務省やJICAなどの国際協力団体と連携し、医療従事者への教育や製品・サービスの提供による支援を行っています。

ガーナ共和国への尿検査自動化技術普及促進による医療環境の向上を支援

アフリカ諸国では、がん、糖尿病、腎臓病などの非感染性疾患（NCDs）の患者さんが増加しています。NCDs対策においては、予防や早期発見・早期治療が重要とされている一方で、スクリーニング方法の一つとして有効かつ比較的簡便な尿検査が十分に普及していないことや、手作業による検査結果の不均一性などが課題となっています。

そのような背景から、シスメックスは、ガーナ共和国を対象とする「尿検査自動化技術普及促進事業」をJICA公募事業「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」に提案し、採択されました。



キックオフセレモニーの様子

この事業では、当社の全自動尿検査搬送システムのガーナ国立教育病院への導入に加え、現地の医療従事者の方に向けた尿検査自動化の臨床的価値や検査の品質管理、装置メンテナンスなどに関する研修を実施します。この活動を通じて、ガーナにおけるNCDsの予防や早期発見・早期治療の促進に貢献していきます。

国際基準に適合した臨床検査室の品質管理体制構築を支援

シスメックスは、医療人材および医療インフラの不足とともに医療の質確保が課題とされているアフリカ ナミビア共和国において、臨床検査室の品質管理体制構築を支援しました。Namibia Institute of Pathologyの3施設に対して当社製品を導入し、国際基準（ISO 15189）に適合した臨床検査室の運営を目指した品質管理システム運用マニュアル「Sysmex Quality Guidance Manual」を用いたメンターシップ[※]方式のトレーニングを提供しました。



メンターシップトレーニング

アフリカ地域では、これまでザンビア共和国とジンバブエ共和国においても同様の取り組みを通じて検査室の品質向上支援活動を展開しており、これらの実績を布石として、アフリカの近隣諸国への水平展開を図っていきます。

※ 人を単に管理するという発想でなく、組織の方向性や価値観を明確にした上で、事業に関わる全ての人の成長と成功を追求し、人を動機付け、能力を向上させていくように導く姿勢やスキル、また、そのしくみによって組織を活性化していくマネジメントのこと。

臨床検査の標準化・質向上に向けて学術支援活動を展開

シスメックスは、中国やモンゴル、カンボジア、ミャンマー、タイ、フィリピンの政府機関や基幹病院、大学などと学術支援活動に関する契約を締結し、支援を行ってきました。

モンゴルにおいては、従来のヘマトロジー・生化学・免疫分野に加えて、2017年からは新たに血液形態検査分野にも対象を拡大し、支援活動を継続しています。現地の臨床検査技師に、技術的、学術的ノウハウを提供するとともに、国家的に実施される血液形態検査の外部精度管理のしくみの構築・運営を支援することで、モンゴルの医療水準の向上に貢献しています。

アジア地域における外部精度管理サービス実績

国	実績
モンゴル	ヘマトロジー・生化学・免疫・血液形態検査分野で外部精度管理を実施
ミャンマー、フィリピン、カンボジア、タイ	血球計数分野で外部精度管理を実施

その他医療従事者への教育支援

医療アクセスの向上には、医療インフラの整備とともに、適切に訓練を受けた医療従事者の存在が不可欠です。シスメックスは、臨床検査室の品質向上や臨床検査の標準化・質向上を通じた教育支援に加え、医療従事者の方々を対象としたセミナーや勉強会の開催、最新の学術情報の発信などを実施しています。

▶ [カスタマーリレーションについてはこちらをご覧ください。](#)

責任ある製品・サービスの提供 品質・安全性の確保

品質・安全性に関する方針

シスメックスでは、「品質方針」「行動基準」および「シスメックスコーポレーション品質コンプライアンス方針」に基づき、国際的な法令、規格などを遵守するための体制を整備し、活動しています。

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組みます。

2007年5月改定

品質マネジメント

グローバルな品質マネジメントシステム

シスメックスでは、全ての生産拠点[※]で国際規格ISO 9001またはISO 13485の認証を取得しています。グループ全77社中では、ISO 9001は33社、ISO 13485は19社が認証を取得しています。これらのマネジメントシステムが確実に運用されていることを確認するために、主要なグループ会社の品質活動についてマネジメントレビューや品質監査を実施しています。2018年度は内部品質監査で33件、外部品質監査で1件の不適合が見つかりましたが、是正対応を完了しています。

また、国内外のグループ会社から品質管理の担当者が参加する「グローバルRAQA（Regulatory Affairs Quality Assurance）会議」を定期的で開催してグループ全体での品質情報の共有と体制強化に取り組んでいます。

※ 100%子会社

継続的な改善プログラム

品質を維持・向上するためのしくみを強化

臨床検査で用いられるシスメックスの製品は、人々の生命と健康を守る上で極めて重要な役割を果たしています。そのため、製品の設計・開発段階において、世界各国の安全規格を満たすことはもちろん、さまざまなしくみを構築して、製品品質の維持・向上を図っています。

製品の開発プロセスにおいては、市場に導入するまでに5つの「クオリティ・ゲート」を設けて品質を確認しています。また、シスメックスが販売する他社製品についても製造業者への監査や製品の検査を実施し、品質確保に努めています。このような取り組みに加えて、万一不具合などがあった際には、すぐにそれを把握し、対応できるような体制を整えています。

製造現場においては、製造工程およびサプライヤーの不適合発生状況を毎月監視し、不適合率の高いサプライヤーに対しては品質改善を適宜指示するとともに、定期的に品質監査を実施することで品質を確保する体制を整えています。さらにグローバル品質苦情処理システムによって、グローバルかつタイムリーに市場から品質情報を収集し、不具合情報を入手した際は直ちに原因を究明し、不具合品の市場流出を防止しています。このような不具合情報や正処置・予防処置はグローバルに共有し、製品品質の維持・向上に役立てています。

第三者機関から認定された品質の高い製品・サービスの提供

シスメックスでは客観的な信頼性を高めるため、製品の検査結果に関する品質保証体制を強化しています。

その取り組みにより、2018年4月、標準物質の生産を行うシスメックス国際試薬において、標準物質生産者の能力に関する国際規格ISO Guide34の認定を取得しました。ISO Guide34認定は、適切な品質の標準物質を供給できる能力を証明するもので、血球計数検査分野において日本で初めての取得となりました。本認定の取得により、当社製品・サービスのデータ保証に関わる客観的信頼性が高まり、臨床検査機関のお客様は、適切な検査データを提供できる能力を持つことをグローバルに実証することができます。

またシスメックスは、以下の認証も取得しています。

- ISO/IEC 17025（試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項）
- ISO/IEC 17043（適合性評価—技能試験に対する一般要求事項）
- ISO 15195（臨床検査分野の基準測定検査室に対する要求事項）

従業員へのトレーニング

品質・安全に関わる教育に注力

シスメックス株式会社では全従業員を対象とした品質方針教育に加えて、特定の部門・職種を対象とした基本的・専門的な品質教育を実施しています。

世界190以上の国や地域で製品・サービスを展開している企業として、開発部門の技術者に各国の法規制の教育を実施し、法規制に則った製品開発を徹底しています。

2018年度の実績（事例）

会社名	取り組み内容
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> • 製造販売担当の安全管理従事者および不具合の調査従事者に対し、健康被害発生の原因となる「安全管理情報」の収集および取扱方法を正しく理解することを目的としたGVP（Good Vigilance Practice）の教育実施（784名） • 品質方針、グループ品質目標、QMS関連法令等の教育実施（アイスクエア、加古川工場：389名）
シスメックス国際試薬	<ul style="list-style-type: none"> • 品質方針、グループ品質目標の教育実施（小野工場、西神工場：265名）
シスメックスメディカ	<ul style="list-style-type: none"> • 品質方針、グループ品質目標の教育実施（145名）
シスメックスRA	<ul style="list-style-type: none"> • 品質方針、グループ品質目標の教育実施（195名）
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> • 品質管理、環境、エネルギーを含む情報管理システムの教育実施 • 医療機器コンサルタント法の対象となる全ての従業員（主に販売、マーケティングおよびサービス担当者）を対象に、定期的な専門教育実施

責任ある製品・サービスの提供

製品・サービスに関する適切な情報開示

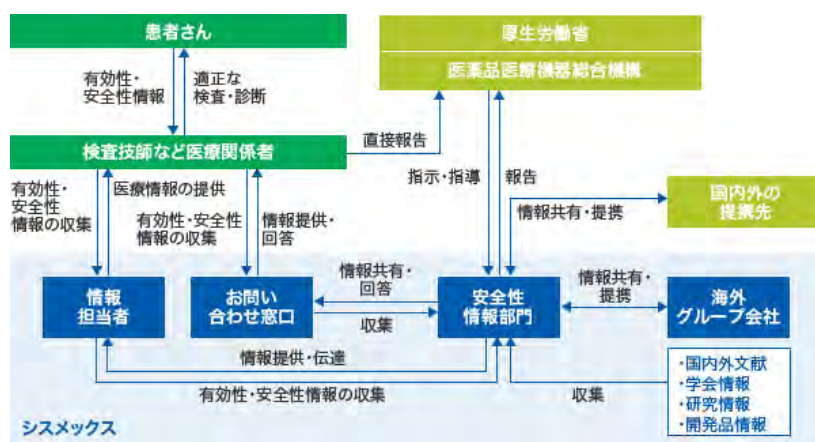
品質・安全性に関する情報

お客様からの情報をグループ内で共有

製品の品質と安全性はメーカーとしての信頼性の確保に直結することはいうまでもありません。

シスメックスは、製品の品質と安全性に関する情報を管理する信頼性保証部を設置して外部から寄せられる情報を調査・分析して設計・製造など各部門と共有し、品質改善だけでなく、次代を担う新製品の開発に活かす体制を整えています。

製品の品質と安全性に関する情報を管理する体制



ウェブサイトでの回収・改修の情報開示

シスメックスでは、製品の回収・改修などの情報を当社ウェブサイト内「製品に関する重要なお知らせ」で開示しています。

- ▶ 「製品に関する重要なお知らせ」についてはこちらをご覧ください。 [▶](#)

模倣試薬の積極的な取り締まり

シスメックスは、正確な検査結果を保証するために、医療機関のお客様には純正の機器と試薬のセットでご使用いただくようお願いしています。近年、一部の地域でシスメックス製試薬の名称や容器の形状を模倣した試薬の流通が発見されています。模倣試薬を使用した場合、検査結果の信頼性が保証できず、場合によっては患者さんに健康被害をもたらす危険性があります。

このため、模倣試薬の市場流通状況を継続的に監視しており、模倣試薬を発見した場合は、知的財産権を用いて現地の行政機関や司法機関を通じて迅速かつ徹底的な取り締まりを実施しています。また、現地の新聞に広告を掲載し、医療機関が模倣試薬を使用しないよう注意喚起しています。

責任ある製品・サービスの提供 サプライチェーンの評価・管理

行動基準

公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様とともに発展する企業を目指します。

サプライチェーンマネジメント

サプライチェーンにおけるCSR調達の推進

シスメックスでは、調達は事業活動の基盤を支えるものであると位置付け、行動基準に準拠した「調達方針」を定め、これに基づく取引先の選定、サプライチェーンマネジメントの構築に取り組んでいます。また、調達活動における環境配慮の基本的な考え方としては「グリーン調達基準」を制定しています。

2015年3月にはサプライチェーンにおける強制労働や児童労働、人身取引、搾取などの撲滅を規定した「英国現代奴隷法」が発効したことを受け、シスメックス UKがホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

- ▶ [グリーン調達についてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [「英国現代奴隷法」の対応についてはこちらをご覧ください。](#)（シスメックス UKホームページ）[▶](#)

調達方針

シスメックスグループ企業理念「Sysmex Way」で定める「ヘルスケアの進化をデザインする」というMissionのもと、公平・公正を基本とした調達活動を行い、取引先の皆様に安心をお届けします。また相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業を目指します。我々は、法令や契約の遵守とともに高い倫理観のもと、ヘルスケア分野で事業展開する企業にふさわしい品質の部品・原材料の安定調達を行い、世界中のお客様に安心してご使用いただく製品をお届けできるよう、本方針に従い活動していきます。取引先の皆様には、下記7項目において、将来の価値の創造、改善につながる取り組みを期待しています。

お取引先様へのお願い

1. ヘルスケアにふさわしい品質
2. 継続的な供給体制の構築
3. ヘルスケアの発展に貢献できる技術力
4. 安定した経営基盤とBCP（事業継続計画）体制の構築
5. 各国の法令や社会規範などを遵守した経営およびCSRの推進
6. 地球環境保全に向けた環境マネジメントの推進
7. 適正価格での供給と積極的な価格低減活動の実施

2014年3月改定

CSR調査の実施

シスメックス株式会社では、取引先におけるCSR活動を確認するために既存および新規の取引先の現況を調査しています。2018年度に対象となったのは、既存取引先約230社及び新規取引先3社です。実施率は85%となり、目標の80%を達成しました。2019年度は90%以上の実施を目標としており、CSR調査結果のフォローアップも実施します。また、2018年度には一部の二次サプライヤーに対しても調査を実施しました。

既存取引先向けの調査はグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンが開発したCSR調達セルフ・アセスメント・ツールを採用しています。調査項目は人権、労働慣行、腐敗、環境、紛争鉱物など多岐にわたります。当社は分科会メンバーとしてこのツール、他各種アウトプット制作に取り組んでいます。

新規取引においては、CSRの取り組みに問題がある場合は取引を実施しないことを定めており、CSR調査に加えて経営者との面談も行います。こうした取り組みは海外の取引先についても同様であり、特に児童労働や職場環境については調達担当者が現地を訪れて状況を確認し、問題がないかを確認しています。

- ▶ [グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 共通版CSR調査票「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット」はこちらをご覧ください。](#)

調達部品・原材料の品質向上に向けて

シスメックスでは、品質に関する要求事項を明確にした品質保証協定書を提示し、当社の調達方針についてご理解いただいた上で契約を締結しています。納入品の品質確認を行い、是正や予防措置の実施が必要と判断された場合に品質監査を実施しています。

新規の取引先に対しては品質監査を実施し、品質管理が適切に運用されているかどうかを確認しています。また、既存の取引先に対しても定期的な品質評価を行い、品質を維持・向上するための取り組みを行っています。

サプライチェーンでの連携

シスメックスでは、当社の事業の方向性や調達方針をご理解いただいた上で取引ができるよう、取引先との関係強化に努めています。

2018年度は国内の主要な取引先に対して、設立50周年を機に「感謝と挑戦」をテーマにパートナーズセレブレーションを開催し、長期間取引を継続しているサプライヤー、技術的に優れたサプライヤーの表彰を実施しました。

また、サプライチェーンにおけるCSRの取り組み強化・推進を目的に、CSRの取り組みが優れた調達先を選出し、当社CSR部門も参加したダイアログを行いました。

今後も安定したサプライチェーンの維持・強化を図っていきます。

調達関連法規制遵守を目指した社内啓発活動

シスメックス株式会社では、電子調達システムを構築し、不当な代金減額や返品を防止するとともに、同システムに関する研修を毎年実施しています。また、全調達部門員を対象として下請法に関する教育を実施し、さらに新規配属者を対象として「調達方針」「CSR」「グリーン調達」「調達リスク」に関する教育を実施しています。

カスタマーリレーション

お客様満足度の向上

国内外でお客様満足度調査を実施

シスメックスでは米州、EMEA[※]、アジアパシフィックの主要国に加え、中国や日本など、さまざまな国や地域でお客様の満足度調査を実施しています。展開している製品やサービスの内容に応じて、それぞれの国や地域で独自の指標を用いています。

シスメックス アメリカは、血球分析装置メーカーを対象としたお客様満足度調査「IMV ServiceTrak」（IMV社主催）で18年連続No.1を獲得しています。また、優れた製品・サービスを提供する企業に贈られる「Supplier Excellence Awards」（Quest Diagnostics社主催）の受賞企業4社の中に選ばれました。

その他EMEAやアジア・パシフィックでも定期的にお客様満足度調査を行っており、高い満足度を得られているという調査結果が出ています。

▶ [顧客満足度の調査結果については「2018年度実績データ」をご覧ください。](#)

※ 欧州・中東・アフリカ地域

お客様のニーズから独自のソリューションを創出

シスメックスでは、検査機器・試薬・ITの技術を融合し、お客様のニーズに応える独自のソリューション創出に努めています。近年は、複数の機器をつなぎ検査の自動化を実現することで、検体の取り扱いにおける感染リスクの軽減や検体の取り違えの防止、検査室の生産性を高めるロボティクス技術を駆使した搬送システムの構築、試薬交換回数を大幅に低減する濃縮試薬の提供などを行ってきました。

他にも、シスメックス ニュージーランドでは、公衆衛生診断サービスを提供している Diagnostic Services Manitoba (DSM) と共同で、カナダ・マニトバ州の医療機関に向けたLIS (Laboratory Information System) を開発しました。LISは、州全体で標準化された診断サービスの提供に加え、患者さんのケアや診断結果のフローを効率化するシステムです。この結果が認められ、2018年度にはNZHITイノベーションアワードのファイナリストとして選出されました。

▶ [NZHITイノベーションアワードの受賞についてはこちらをご覧ください。](#)


サービス&サポートの充実

お問い合わせに、迅速・確実にお応えするために

シスメックス株式会社では、日本国内のお客様のための相談窓口「カスタマーサポートセンター」を設置し、豊富な知識を持った専任スタッフが、365日24時間体制（別途契約が必要）でお問い合わせに対応しています。同センターでは、過去のお問い合わせ内容やメンテナンス履歴などを蓄積し、すぐに参照できるようにすることで、お客様からのお問い合わせ・ご要望に迅速・確実にお応えしています。

また、相談窓口などを通じて収集したご要望は、VOC（Voice of Customer：お客様の声）チームが集約し、さまざまな角度から分析した後、関係部門へフィードバックされ、新たな製品開発や業務改善に活用されています。2018年度には、国内市場から約17,600件のお客様の声を収集しました。お客様の声から生まれた新たな機能や装備を搭載した装置は、製品カタログにVOCマークを記載しており、高い評価をいただいています。

グループ全体でも、各地域にカスタマーサポートセンターを設けてお問い合わせに迅速・確実にお応えする体制を整えるとともに、お客様のご要望にいち早く応えるしくみの構築に努めています。



Voice of Customer = お客様からのご意見・ご要望を製品開発に活かす取り組み。
日本国内で主要な機器・試薬の、研究開発から製造、販売、サービス&サポートまでを一貫して提供する
シスメックスならではの取り組みです。

ITを活用したソリューションの提供

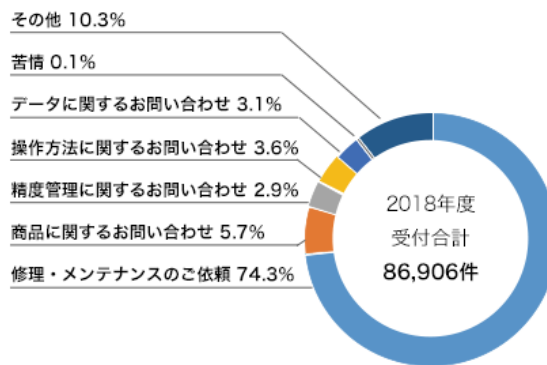
シスメックスは、病院などの検査装置の精度管理^{※1}や自動監視、リアルタイム解析をもとにした故障予測機能などを行うことで装置の安定稼働を支援するネットワークサービスSNCSTM^{※2}を提供しています。

世界的な情報化の進展などを背景に加速する効率化と品質強化への要求が高まる中、2018年度には新たなネットワークソリューション「CaresphereTM」の提供を開始しました。「CaresphereTM」は、IoTやクラウドを活用して、病院の検査業務や検査室運営のさらなる効率化と、検査装置や業務の品質管理を支援するアプリケーション・サービスから提供を開始し、将来的には、地域医療に携わる施設やそれらの施設で従事する幅広い医療従事者の方向への展開も予定しています。

※1 精度管理とは、検査装置の測定値を保証するための管理手法。お客様の検査装置が正しく機能しているかを確認すること。

※2 SNCSTM (Sysmex Network Communication Systems) とは、お客様の分析装置と、当社のカスタマーサポートセンターをインターネットでオンライン化することにより、リアルタイムの外部精度管理・装置状態の自動監視や、Webによる情報提供を行うサービスのこと。なお、実施するサポートサービスの内容は各地域により異なります。利用には別途契約等（有償）が必要です。

カスタマーサポートセンターお問い合わせ内容



▶ 過去3年間の実績は「2018年度実績データ」をご覧ください。

オンラインでのトレーニングサポートの実施

シスメックスでは、お客様サポートの一環として、機器およびメンテナンスのトレーニングを各地域で実施しています。

広大なエリアに医療機関が点在するシスメックス アメリカでは、お客様がシスメックスの研修施設に出向くことなく必要に応じてトレーニングを受けられるよう、ネットワークでつないだリアルタイムのバーチャルトレーニングを提供しています。事業拡大に伴う需要拡大を見据え、2018年度にはトレーニング施設を集約・拡張した「Center for Learning」を開設しました。

役立つ情報の発信

シスメックスでは、当社ウェブサイト「サポートインフォメーション」で、お客様に役立つ情報の発信を行っています。

最新情報をお伝えるメールマガジン配信サービス、コンテンツや閲覧履歴などを管理できるマイページ機能など、お客様によりご活用いただけるよう、継続的に機能の充実を図っています。



ウェブサイト「サポートインフォメーション」

臨床検査の質的向上へISOを活用

近年、臨床検査分野において検査結果の質の向上が強く求められており、世界的に国際規格への関心が高まっています。その一つとして、「ISO 15189（臨床検査室の品質と能力に関する要求事項）」を取得する臨床検査室も増加しており、すでに認定取得が義務化されている国もあります。

シスメックスは、臨床検査の校正機関に対する国際規格ISO/IEC 17025およびISO 15195の認定を取得しており、シスメックスが提供している自動血球分析装置に対する校正サービスの品質は、国際的な基準で担保できていることが証明されています。また、この分野での認定取得は国内では初となります。

お客様はISO 15189が要求する校正を実施していることを証明するために、シスメックスが発行する校正証明書をグローバルに認められた認証書として利用することができます。2018年度末時点で、シスメックスは延べ4,800台以上の装置に対して認証書を発行しました。

また、外部精度管理サービスであるSNCS/eQAPI[※]は全産業分野で国内初となるISO/IEC 17043「適合性評価-技能試験に対する一般要求事項」の認定を取得しました。

※ SNCS（Sysmex Network Communication Systems）はネットワークを利用して臨床検査機器の精度保証および故障監視・修理サポートなどを行うサービス。eQAPIは機器や試薬メーカーを選ばない外部精度保証

学術活動

シスメックスは、日本をはじめとするアジア各国の医療従事者などを対象に最新の医学情報を提供するためのセミナーを開催するとともに、各国の保健省をはじめとした国家機関や主要学会とともに、医療水準の向上を図るための学術活動を展開しています。

医療従事者向けの学術セミナーを開催

第41回シスメックス学術セミナー

シスメックスでは医師および臨床検査技師など第一線で活動されている医療従事者を対象とした学術セミナーや勉強会を各地域で実施しています。

臨床検査分野における最新の情報を提供し、その知見を共有する場として1978年より毎年開催しているシスメックス学術セミナーは、2018年6月に第41回を迎えました。2018年度は「ここまで来たミレニアム先端医療」をテーマに、神戸・東京のメイン会場に加え、国内は15会場、海外2会場で開催し、約1,200名の方々に参加いただきました。その他、マレーシア・フィリピン・ベトナムで、血液凝固検査・免疫検査に関連する学術セミナーを開催し、OGT社では細胞遺伝学検査領域におけるユーザーミーティングなどを開催しました。

このような取り組みを継続することで、多くの医療関係者と信頼関係を構築するとともに、医学的な知識の蓄積による医療の質の向上を図っていきます。



学術セミナー（日本）



学術セミナー（インドネシア）



ワークショップ（ベトナム）

臨床検査の質向上に向けた活動を実施

シスメックスは、さまざまな取り組みを通して各国の臨床検査の質向上に貢献しています。

アジアの新興国・開発途上国に対して、外部精度管理などによる検査の標準化支援を行っています。2018年度は、フィリピン、タイ、モンゴル、カンボジア、ミャンマーにおいて外部精度管理を実施しました。

シスメックス アメリカでは、大学に血球計数装置を提供するとともに、機器を適切に操作するための講義、トレーニングなどのサポートもあわせて行っています。また、シスメックス 上海では、尿路感染症や糖尿病などに関連した細胞形態の識別能力を競う無料ソフトウェアを開発し、技術者の専門知識向上に貢献しています。

▶ 臨床検査の標準化・質向上に向けて学術支援活動を展開

魅力ある職場の実現 働きやすい職場環境の確保

公正な評価・処遇

能力・成果に基づく公平な人事評価

シスメックスは自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会を提供するとともに、公正な処遇に努めています。職掌・資格等級に応じた適切な処遇を実施しており、性別による基本給与の差はありません。

公正な処遇のベースとなる評価については、「企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いる」という考え方にに基づき、成果のみの評価ではなく、成果発揮にいたるプロセスの評価（コンピテンシー評価）も行っています。また、公平かつ納得性のある人事評価を目指し、評価結果、上司コメントを各個人に開示しています。

人材マネジメントシステムの考え方

1. 長期的な雇用を実現するために

- 多様な人材が安心して能力を発揮できる複線型の資格等級フレームを整備し、自己実現と成長の機会を提供

2. 多様な人材の能力開発・育成を推進するために

- コンピテンシーを基軸とする資格等級基準を設定し、昇格基準の明確化による人材育成と昇格運用の適正化を促進
- 成果のみではなく、成果発揮に至るプロセス（発揮能力）を評価し、人材育成と企業風土の変革を促進

3. 企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報いるために

- 評価と報酬の関係をシンプルにし、誰にでも分かりやすい制度
- 仕事の貢献度・役割・発揮能力（コンピテンシー）および成果に連動したメリハリのある報酬体系

社員のキャリア設計をサポート

シスメックス株式会社では、全社員を対象とした「自己申告制度」を運用しています。この制度では、毎年個々の社員へのヒアリングを行い、中長期のキャリアや海外勤務、職種についての希望などを聞き取っています。これによって、一人ひとりに自己のキャリアの方向性とライフプランについて考える機会を持ってもらうとともに、申告内容を能力開発や人材配置に活用しています。

契約社員・派遣社員などの登用・待遇改善

シスメックス株式会社は、契約社員や派遣社員の正社員登用にも積極的に取り組んでいます。契約期間が限られている有期雇員者に対し、公平に登用機会を提供することを社内規程において明文化するとともに、イントラネットなどで周知徹底を図っています。

また、働きやすい環境づくりを目的として、正社員に対し導入していたフレックスタイム制や福利厚生プログラムシステム「カフェテリアプラン[※]」の適用対象者を契約社員にも拡大しました。これにより、通院や子育てなど、個々の事情に応じて従業員が自主的に就業時間を設定し効率的に業務を遂行しています。今後も適宜、制度などの見直しを実施し、従業員の待遇をより良いものにしていきます。

※ 福利厚生プログラムシステムの一つ。会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意思によって特定の福祉（ワークライフバランス向上）のために費やすことができる。

▶ 過去3年間の実績は「2018年度実績データ」をご覧ください。

モチベーションアップにつながる社内表彰制度を導入

シスメックスでは、グループで最も貢献した個人および組織・グループをたたえる表彰制度「グループCEOアワード」を導入し、毎年、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践した個人1名、グループ1組を選出してその功績をたたえ、全社で共有しています。

また、研究開発者のモチベーション向上と知的財産に対する意識を高めることを目的とした「特許大賞・優秀特許賞」「パテントマイスター」「出願記念賞」の3つの「特許表彰制度」、さらに品質改善に関する成果を表彰する「品質アワード」を設けています。

従業員満足度向上に向けた取り組み

シスメックスでは、2年に1回、グループ全従業員を対象とした「企業風土調査」を実施しています。その中で従業員満足度についても調査をしています。調査結果は各部門にフィードバックし、満足度向上に取り組んでいます。調査のスコアが伸び悩んだ部門に対しては、人事部門が訪問して改善のためのアドバイスなどを実施しています。部門に対してだけでなく、個人に対しても人事部門がインタビューを行うなど、風土改革に向けた課題の特定と改善策の検討を図っています。

ワークライフバランスへの理解と支援

ワークライフバランス支援制度の利用促進

シスメックス株式会社では、イントラネット上の専用サイトでワークライフバランス支援制度についてわかりやすく解説している他、説明会なども開催し、周知を図っています。また、キャリアや働きがい、仕事とプライベートの両立、異文化理解などの幅広いテーマについて、自由な意見交換を実施するダイバーシティ・ラウンドテーブルを通じて従業員同士の情報共有を行う中で、制度の利用促進も図っています。

▶ [ダイバーシティ・ラウンドテーブルについてはこちらをご覧ください。](#)

仕事と育児の両立支援制度

さまざまな休暇制度や社内託児所で育児を支援

シスメックス株式会社は、出産前から育児までに対応した多様な制度を制定しています。不妊治療や出産前のつわりに対しての休暇制度をはじめ、出産後は子どもが2歳になるまでの育児休業や中学就学前までの勤務時間短縮制度および在宅勤務制度、職種別のフレックスタイム制度が利用できます。さらに、子どもの看護のために会社を休む際、法定休業以外に積立有給休暇を半日単位で利用できる制度を導入しています。復職前セミナーや育児休業中の従業員向けにニュースレターを配布し、スムーズな復帰を支援しています。

また、男性社員の育児参加ニーズにあわせ、配偶者出産時の特別休暇を出産の前後1カ月以内に2日取得できるようにし、出産準備にも参加できるよう配慮しています。また「育み休暇」として子どもが1歳になるまでの間は育児を理由に連続3日間の特別休暇を設けています。

研究開発拠点テクノパーク内には、従業員から乳幼児を預かる社内託児所「シスメックスキッズパーク」を設置し、常時保育だけでなく、配偶者が非常勤で働いている場合や、保護者の疾病、弔事などにより家族での保育が困難なときなどの一時的な利用にも対応しています。

これらの制度を計画的に整備してきたことが認められ、厚生労働省から次世代認定マーク（愛称「くるみん」[※]）を取得しています。

※ 次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業が「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定（くるみん）を受けることができる。

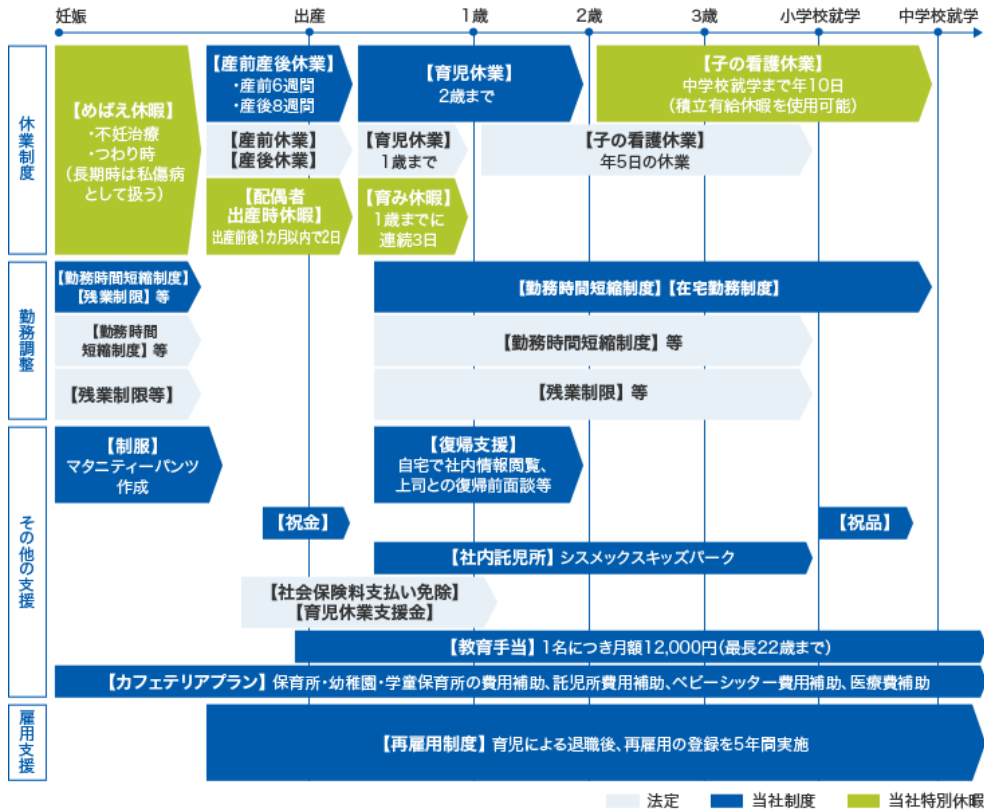


社内託児所「シスメックスキッズパーク」



次世代認定マーク「くるみん」

育児関連制度



その他のワークライフバランス支援制度

介護や社会貢献活動などを支援

シスメックス株式会社はワークライフバランスを実現するための制度の一つとして、介護に関する各種制度を整備しています。

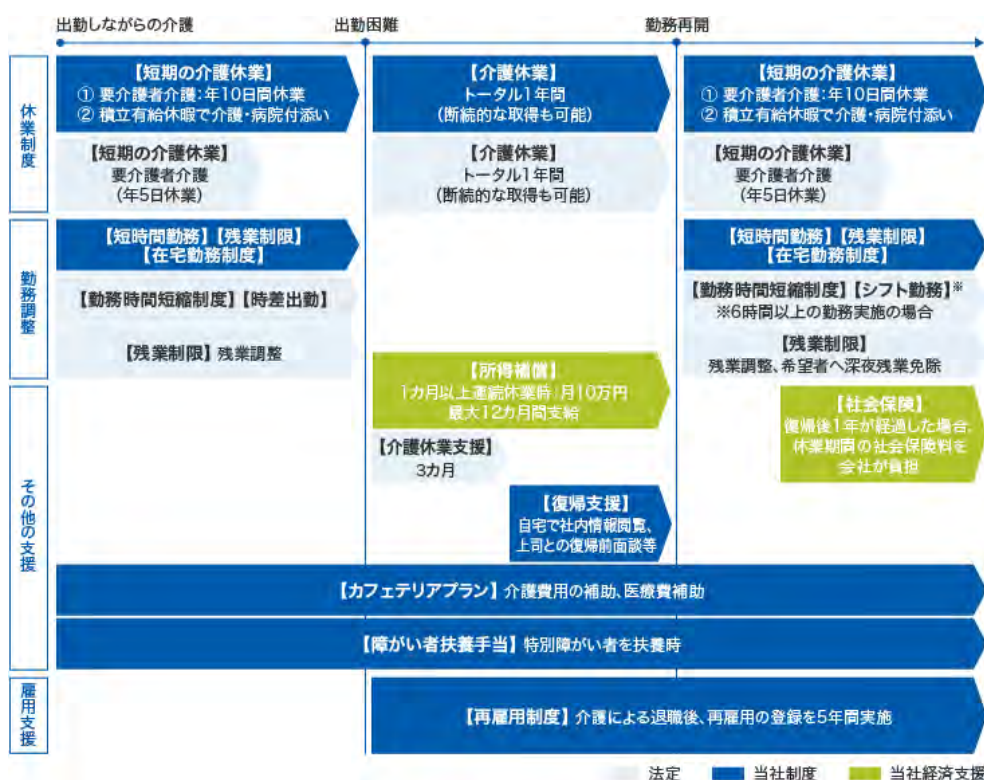
家族の入院などで付き添いが必要になったときには、短期の介護休業と積立有給休暇を半日単位で最大40日取得でき、要介護者・要支援者のご家族のための在宅勤務制度も導入しています。

また、1カ月以上の介護休業による収入減や費用発生に備え、会社独自で介護休業補償金を支給する所得補償制度の他、介護でキャリアをいったん中断した従業員を再雇用する制度もあります。

これらの制度の存在意義や、突然の介護に備えて何をすべきかなど、介護と仕事の両立不安を解消するための説明会も行っています。

さらに、「ボランティア休暇」（年10日、2日までは有給休暇）、「（臓器提供などの）ドナー休暇」（1件につき5日）など、目的に応じて従業員が休暇を取りやすいようにさまざまなワークライフバランス支援制度を設けています。

介護関連制度



休業後の職場復帰を支援

シスメックス株式会社では育児や介護で休業した従業員のスムーズな職場復帰のため、3カ月前から社内メールやイントラネットに接続できるタブレット端末、ノートパソコンを貸与し、ITを活用した支援制度を導入しています。これはリアルタイムで社内情報を入手し、職場とのコミュニケーションを可能とすることで、復帰時における戸惑いや職場ギャップの解消を目指したもので、利用開始時には所属部門の上司と面談する機会も設定しています。また、育児休業からの復帰準備セミナーも行っています。

その他グループ会社での取り組み

会社名	取り組み内容
シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入 法定以上の育児休暇制度の導入（父親、母親） ファミリーサポート制度の導入（子育て支援、家族休暇、家族が病気になった場合の外部機関によるサポート利用時の補助金支給）
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入 親子ルームの設置 育児休暇制度の導入（父親、母親） 子育て支援制度（外部機関によるサポート利用時の補助金支給）
シスメックス 上海	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度の導入 子育て支援制度（医療保険補助）
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイム制度、在宅勤務制度の導入 子育て支援制度（医療保険補助、奨学金支給） 2日間のボランティア休暇を付与

グループ会社における社外からの評価・表彰

会社名	評価・表彰内容
シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 「Companies That Care Honor Roll」に11年連続で選出 ▶ Companies That Care Honor Rollの受賞についてはこちらをご覧ください。
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 「Top Employer SME 2019」医療機器カテゴリーで第8位（FOCUS-Business主催） 「Family Friendliness」賞を受賞（ドイツ連邦家庭・高齢者・女性・青少年省）
シスメックス マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> 「HR Asia Best Companies to Work for In Asia 2018」を受賞（HR Asia主催）
シスメックス コリア	<ul style="list-style-type: none"> 「Great Place to Work 2018」の韓国トップ100に初選定



親子ルーム（シスメックス ヨーロッパ）



Great Place to Work 2018（シスメックス コリア）



HR Asia Best Companies to Work for In Asia 2018（シスメックス マレーシア）

従業員関連データ

- ▶ [従業員関連データについてはこちらをご覧ください。](#)

魅力ある職場の実現 人材の育成

人材マネジメントの基本的な考え方

日本発のグローバル企業として、長期的な雇用を前提に多様な人材の能力開発・育成を推進し、企業価値向上に貢献する能力および成果の発揮に対して報います。

行動基準

従業員に対して

多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

人材育成

グローバル人材育成の推進

グローバルに事業を展開するシスメックスのグループ従業員は約8,700名になり、海外従業員比率は6割を超えています[※]。このような状況において、グループ企業理念「Sysmex Way」を実践し、世界中の人々に安心をお届けしていくためには、個々の人材の能力向上はもちろんのこと、多様な人材同士がコミュニケーションを通じて、互いに価値観を共有し、気づきを得ることで、新たな価値や文化を探求・創造していくことが重要であると考えています。

その一環として2014年度にグループ共通の「グローバル人材開発体系」を制定し、事業活動および職場での一体感の醸成や次世代の人材育成、グループ内のネットワーク強化、異文化の相互理解のためのさまざまな施策に取り組んでいます。

※ 2019年3月末時点

4つのコンセプトに基づく人材育成

シスメックス株式会社では、取締役 専務執行役員が管掌する人材開発部を設置し、人材育成を推進しています。「研修と評価と仕事（成果発揮）を接続」「シスメックスグループのグローバル化の促進」「継続的な人材開発投資」「人を育て、人が育つ会社」の4つのコンセプトに基づき、選抜型研修、階層型研修、自律選択型研修を研修体系の軸とした計画的・段階的な人材育成に取り組んでいます。2018年度の1人当たり平均研修時間は16.6時間、平均研修費用は109,000円、受講者数は971名でした[※]。

また、社内外の多様な文化や価値観を持つ人々が集うための施設であるグローバル コミュニケーション センター（GCC）を兵庫県芦屋市に開設し、人材開発体系に基づく各種研修、部門横断型の勉強会、合宿などへ活用します。

※ シスメックス株式会社のデータであり、人事部門が提供する研修を対象とする。eラーニング、自己啓発および実地研修など業務の一部に該当するものは除く。

▶ 過去3年間の実績は「2018年度実績データ」をご覧ください。



異文化体験研修



施設見学や業務体験を通じたグループ会社間の交流

研修体系の3つの軸

研修区分	目的
選抜型研修	<ul style="list-style-type: none"> グローバルリーダーの育成 将来的な経営人材の育成
階層型研修	<ul style="list-style-type: none"> 企業理念、当社歴史の理解深化 階層ごとに最低限必要とするマネジメントや課題解決などの知識・スキルの習得 部門間コミュニケーションの促進
自律選択型研修 (Sysmex College)	<ul style="list-style-type: none"> 業務遂行における実践的な知識・ノウハウ・スキルの習得 ビジネス・マネジメント各種知識の習得

人材育成プログラム事例

会社名	プログラム名・ 施策名	目的・概要
シスメックス株式会社	グローバル人材交流プログラム	グループ会社間の従業員の交流を促し、互いに理解を深めることで関係強化を図る。
	グローバル アプレンティス プログラム	若手社員を海外グループ会社へ6カ月間派遣し、実務経験を通してグローバルで活躍できる人材を育成する。
	ものづくりトレーニングセンターでの研修	シスメックスの機器製品の製造に関わる知識・技能を習得する。
	R&D革新活動	研究開発者のチーム力や提案力の強化を図る。
シスメックス ヨーロッパ	Tsunagari	次世代リーダーの育成と連携を図るプログラム。事業計画、コーチング、リーダーシップスキル強化の研修を実施
	Sysmex Days	中途入社者を対象とした3日間の研修。Sysmex Way、会社の基本的知識や企業風土、マネジメント層との対話、試薬生産工場見学などを実施
	Sysmex School	全従業員を対象とし、一般的なビジネススキルから専門的な内容まで幅広いテーマで講義やワークショップを実施。スキル向上と同時に社内ネットワーク促進を目的とする。
シスメックス アジア・パシフィック	LinkedInラーニング	全従業員対象のSNS (LinkedIn) を利用したオンライン・トレーニングで、マネジメントやリーダーシップ、クリティカル・シンキング、ビジネス分析力、データ分析力、Microsoft Excel/Accessなどのスキル習得・強化を図る。
シスメックス アメリカ	Sysmex Mini MBA	全従業員を対象とした能力開発プログラムで、財務会計、マネジメント、戦略、マーケティング、事業、技術、販売、管理等のスキル習得・強化を図る。
	Sysmex Management Academy	新任管理職などを対象とした半年間の選抜型研修。シスメックスの経営の役割と責任に関する洞察力など、マネジメントスキルの強化を図る。
シスメックス 上海	新任管理職研修	新任マネージャー対象の研修でマネジメントスキルやチーム形成の習得を図る。
	WeChat研修	WeChatによる研修で製品に関わる知識・技能の習得を図る。

魅力ある職場の実現

ダイバーシティの推進

ダイバーシティ&インクルージョン

取り組みの意義

シスメックスでは、「人材」を持続的な成長のための重要な経営資源の一つとして捉え、多様な人材が在籍する「ダイバーシティ」から、多様な人材が働きやすい環境を整備し受容する「ダイバーシティ&インクルージョン」を目指した取り組みを進めています。

多様な価値観・考え・経験・能力のシナジー効果により、イノベーションの創出と価値の創造につなげていきます。

ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて

シスメックス株式会社では、取締役 専務執行役員が管掌するダイバーシティ推進部門を設置し、多様性やLGBT[※]への理解などをさらに推し進める組織文化を醸成しています。例えば、情報発信や理解浸透のための取り組みとして、「ダイバーシティポータルサイト」をイントラネットに立ち上げています。また、ダイバーシティに関する意識調査を実施し、従業員の声を取り入れた施策を展開しています。

シスメックス アメリカでは、「アファーマティブ・アクションプログラム（差別撤廃プログラム）」に基づいた施策を実行してマイノリティ（少数派）に対する偏見や差別の解消を目指しています。

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った性的マイノリティの総称

多様な人材の確保

就職機会の均等化を目指して

シスメックス株式会社では、国籍・人種・性別・年齢・職歴・障がいの有無を問わず、人物本位で採用を実施しています。具体的には、就職が不利な状況に置かれている既卒学生や海外留学生などに対する就職機会の均等を図るために、いつでも応募できる通年採用を実施しています。さらに、世界中のどこからでも応募できるよう、海外での現地説明会や面接に加え、インターネットを通じたウェブ説明会やウェブ面接も実施しています。2018年度も前年度に引き続きインターンシップを実施し、海外の人材に当社を知ってもらうための施策を強化しています。

また、シスメックス アジア・パシフィックでは、2008年から公正な雇用慣行に関するTAFEP[※]の誓約書に署名し、従業員に研修を実施しています。

※ TAFEP (Tripartite Alliance for Fair & Progressive Employment Practices) は2006年5月に、公平な雇用を推進するために設置された、政労使代表（政：シンガポールの人材開発省、労：全国労働組合会議、使：シンガポール全国使用者連盟）からなる機関。シンガポール国家経営者連盟（SNEF）、全国労働組合会議（NTUC）の代表が共同委員長を務める。

障がい者雇用を推進

シスメックスでは、障がい者雇用を進めています。それぞれの適性や能力を活かして、長期的に活躍できる雇用形態で就業しており、シスメックスの日本国内関係会社における2018年度の障がい者雇用率は2.21%です。

2017年4月に、特例子会社[※]である「シスメックスハーモニー株式会社」を兵庫県神戸市に設立しました。シスメックスハーモニーでは、身体、知的、精神に障がいを持つ方々が個々の特性やハンディキャップにあわせて活躍できる業務や職場環境を準備し、「障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働く喜びを感じながら、いきいきと活躍し、ともに成長できる、笑顔あふれる職場」を目指しています。



シスメックスハーモニーでの作業の様子

シスメックス ヨーロッパにおいても、障がい者の自立支援に取り組んでいる団体と連携し、ドイツ試薬生産工場の製造ラインでの梱包作業などを障がいを持つ方々に委託しています。作業者の方々と業務の目的を共有するとともに、定期的なトレーニングと従業員によるサポートを実施することで、高いモチベーションを維持して作業に取り組んでいただいています。

※ 障がい者の雇用のために特別の配慮をしていると公共職業安定所長から認定を受けた子会社。親会社の就業規則とは別に、障がい者の労働能力や就業条件を配慮した就業規則や設備環境を整備でき、障がい者の職域拡大を図ることが容易になる。

高齢者雇用—定年退職者再雇用制度

シスメックス株式会社では定年を60歳とし、高齢者雇用を推進するための制度として65歳までの定年退職者再雇用制度を運用しています。2018年度は、定年退職者のうち、社内ルールに基づいて18名を再雇用しました。

女性活躍推進

シスメックス株式会社は、多様性を受け入れ、従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境整備の一環として、社内託児所設置や法定以上の育児休業などの整備に取り組んできました。また、女性活躍推進法の施行に基づき、2016年4月に「女性活躍推進 行動計画」を制定し、女性リーダーの育成や多様な働き方を促進しています。

そのような取り組みの結果、シスメックス株式会社の女性社員比率^{※1}は2005年度19.9%から2018年度は30.8%まで向上しました。女性管理職比率^{※2}も2005年度2.4%から2018年度8.1%まで向上し、2018年度のグループ全体の女性管理職比率は15.2%となりました。

※1 就業者数でカウント


※2 課長級以上の者

女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」の最高位を取得

シスメックス株式会社では、これまでも従業員一人ひとりの人格や個性を大切にするとともに、安心して能力が発揮できる職場環境の整備を行ってきました。2016年9月には厚生労働省が女性活躍に関して定めた5つの基準を全て満たしたことにより、優れた取り組みを行う企業に与えられる「えるぼし」の最高位である「3段階目」を取得しました。



女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」

- ▶ [社会性データについてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [女性活躍推進法（厚生労働省）についてはこちらをご覧ください。](#) 

理解の浸透と実行

ダイバーシティ教育

シスメックス株式会社では、キャリア、仕事とプライベートの両立、異文化理解などの幅広いテーマについて、自由な意見交換や部門を超えたコミュニティづくりの場としてダイバーシティ・ラウンドテーブルを開催しています。2018年度は「LGBTと多様性」「イスラム教とマレーシア」「父親の育児参加を考えよう」などを展開しました。また、ダイバーシティ&インクルージョン啓発のための「D & I Book」の配布と、eラーニングを実施しました。

シスメックス アメリカやシスメックス ヨーロッパにおいてもダイバーシティ教育の実施やダイバーシティを推進するための従業員グループをつくり、理解と浸透に努めています。

労働安全衛生

職場の安全・衛生の確保

グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生の確保」を明示

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードにおいて「8-4 職場の安全・衛生の確保」に取り組むことを明示し、さまざまな活動に展開しています。

グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 631KB) [📄](#)

役員・従業員が協力して安全衛生の確保を推進

シスメックスでは従業員の安全衛生を確保する指針として「安全衛生規程」を定め、安心して働ける職場づくりに努めており、国内のグループ会社を対象とした中央安全衛生委員会を設置し年に2回開催しています。同委員会では国内のグループ会社の安全衛生・健康管理体制の強化・充実を図るための方針・目標を策定する他、各事業所の安全管理状況の把握、改善すべき施策の検討を行い、結果はリスクマネジメント委員会を通じて経営層へ報告しています。

2018年度は安全衛生目標に「労働災害ゼロ」「従業員への健康投資による活力向上、生産性向上を目指した健康経営の推進」を掲げ、各社・各事業所の安全衛生委員会が中心となって取り組みました。

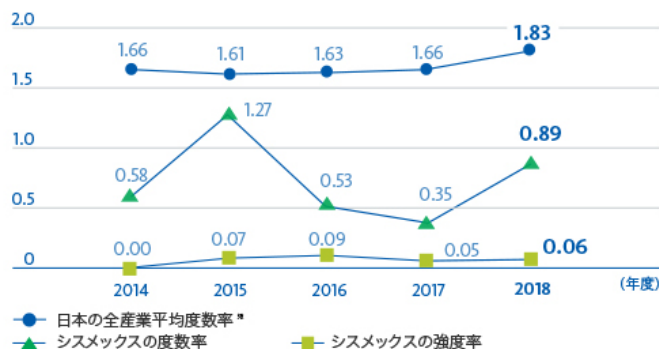
各事業所で定期的に開催される安全衛生委員会では、職場巡回で把握したリスクの排除など、リスクアセスメントの考えに基づき、短期から長期の視点で未然に災害を防止する対策に取り組んでいます。

また、事故や急病人の発生時の適切な応急措置や退避方法、危険性のある機械や原材料の取り扱い方などに関する安全教育や、大規模災害を想定した総合消防訓練、AED使用方法の研修、市民救急救命士講習なども定期的を実施しています。特に災害時における迅速な従業員の安全確保と安否確認、事業所などの被災や製品の供給状況、お客様の被災に関する情報の共有など、初動対応に関する訓練を適宜実施しています。

シスメックス ブラジルは、労働安全衛生マネジメントシステムの国際的な規格であるOHSAS 18001[※]の認証を取得しています。

※ 1996年に英国規格協会（BSI）が発行した規格BS 8800を基に、約30の各国審査登録機関、標準団体などが集まって1999年に発行された規格

労働災害度数率/強度率（シスメックス株式会社）



注:労働災害度数率:のべ労働100万時間当たりの死傷者数の割合
労働災害強度率:のべ労働1,000時間当たりの労損失日数の割合
※ 出典:厚生労働省「労働災害動向調査」

過重労働の防止

過重労働は心身の健康を妨げる要因となることから長時間労働の防止にも取り組んでいます。関連法令の遵守だけでなく時間外・休日労働時間については勤怠および入退社ICカード時間から、厚生労働省の指針よりも厳しい社内基準を設け、この基準を上回った場合、その上長へ連絡して業務改善を図ります。また、従業員には自己チェック票の提出を求め、法定以上の社内基準に沿った産業医との面談の機会を設けています。

2018年4月から個人のパソコンの起動とシャットダウン時間を自動的に取り込んで労働時間を把握し、過重労働を予防する教育研修の実施および具体策の運用を開始しました。2019年3月にも、「働き方改革」関連において、コアタイムなしのフレックスタイム制導入などの説明とともに時間管理・過重労働対策に関して、再教育を実施しています。

健康経営の推進

心身の健康の保持・増進

シスメックス株式会社では、従業員の心身の健康の維持・向上が安全で快適な職場づくりに不可欠なものであると考え、定期健康診断に加え、人間ドックや女性特有のがん検診などを実施し、疾病の早期発見に努めています。医療機器を取り扱う当社の業態上、業務によっては感染性のある物質などに接する機会もあることから、このような業務の従事者に対しては、法定の特殊健康診断に加え、B型・C型肝炎検査を含む独自の健康診断を年2回の頻度で実施しています。また、「がん対策推進企業アクション^{※1}」および「知って、肝炎^{※2}」パートナー企業に登録および肝炎医療コーディネーターの教育を受けた従業員を育成する他、「兵庫県がん検診等受診率向上推進協定」を締結しています。

また、従業員のメンタルチェックやハラスメントに関する状況把握を行う「ココロの健康診断」を年1回実施し、経年的に結果を把握し、職場改善を図っています。

健康相談に関しては、全社的な窓口を設け、産業医や保健師と面談できる体制を整えており、メンタルヘルスについては外部相談機関（EAP）も設置しています。

また、健康保険組合と協働で、創立50周年記念のウォーキングイベントや、勤務時間内の特定保健指導の面談も実施しています。

健康維持のための福利厚生施設として、ソリューションセンターの敷地内にグラウンドやテニスコート、フィットネス設備を備えた体育館などを設け、スポーツ施設利用補助制度なども継続しています。また、従業員自身に健康への関心を持ってもらうためのイベント・セミナーや、健康の増進のためのプログラムが含まれる「カフェテリアプラン^{※3}」、社員食堂でのヘルシーメニュー提供も実施しています。

このようなさまざまな取り組みが評価され、2019年2月に、経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人 ～ホワイト500～」の3回目の認定を受けました。

※1 厚生労働省の委託によるプロジェクト。職場での取り組みを通して、日本のがん検診受診率を50%に引き上げることを目指す。

※2 肝炎に関する知識や肝炎ウイルス検査の必要性をわかりやすく伝えることで、早期発見・早期治療の実現を目指す厚生労働省のキャンペーン

※3 福利厚生プログラムシステムの一つ。会社が毎年、従業員に「カフェテリアポイント」を提供し、自らの意思によって特定の福祉（ワークライフバランス向上）のために費やすことができる。



〈創立50周年記念事業〉健康チャレンジ企画“ウォーキング・ジャーニー”“私の健康チャレンジ宣言”実施

シスメックスは2018年に創立50周年を迎えました。節目となるこの年の記念事業の一つに「健康チャレンジ」であるウォーキング・ジャーニーを実施しました。これは、ヘルスケアの進化を目指す企業として、全世界から従業員を募り、全社一体となって地球50周（200万km）完歩を目指すグローバルチャレンジイベントです。参加者はスマートフォンに”歩行計測アプリ”をダウンロードして“ウォーキング・ジャーニー”に登録し、グローバルで開催されるさまざまなウォーキングイベントに参加します。2,000名以上の従業員が参加し、2019年3月に目標の50周に到達しました。また、歩数ランキング上位者の表彰も行いました。

「私の健康チャレンジ宣言」では、社内SNSで健康目標を宣言、共有することで、従業員の健康意識の向上を促進しました。

上記以外にも海外のグループ会社では従業員の健康確保に向けたさまざまな施策に取り組んでいます。

会社名	取り組み内容
シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 社内フィットネスルームの設置 フィットネス手当・健康手当の支給 健康診断やインフルエンザ予防接種費用の補助
シスメックス ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 社内フィットネスルームの設置 スポーツや栄養管理のプロから指導を受けることができる健康管理プログラムの提供 カフェテリアでの無料ランチの提供
シスメックス UK	<ul style="list-style-type: none"> 電話での健康に関するカウンセリングを24時間体制で実施 第三者によるストレスリスクアセスメントの実施 カフェテリアでのフルーツや水の無料提供
シスメックス スペイン	<ul style="list-style-type: none"> スポーツクラブへの加入費用の補助 リラクゼーションや栄養に関する健康管理プログラムの提供 カフェテリアでのフルーツ無料提供
シスメックス パルテック	<ul style="list-style-type: none"> ランチタイムや就業後に参加できるスポーツコースの提供
シスメックス 上海	<ul style="list-style-type: none"> 社内フィットネスルームの設置
シスメックス 台湾	<ul style="list-style-type: none"> 従業員本人と、配偶者あるいは両親のうちのいずれか1名へ、半日の人間ドックの費用を補助
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none"> スポーツクラブへの加入費用の補助 保健省が実施する健康イベントへの参加推奨と表彰制度の実施 カフェテリアでのフルーツの無料提供
シスメックス マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> 折り畳み自転車を従業員に貸与するなど、マラソンやサイクリングイベントへの支援 ヨガ教室やバドミントンイベントの開催
シスメックス インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> フルーツや水の無料提供
シスメックス ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> 全従業員対象のスポーツアクティビティの開催

労働者の権利の尊重

組合結成の自由と団体交渉の権利の尊重

国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、国連グローバル・コンパクトへの参加とILO 中核的労働基準の支持に基づき、組合結成や団体交渉といった従業員の権利を尊重しています。

シスメックス株式会社の労働組合であるシスメックスユニオンには役職者や一部の管理職を除いた全従業員が加入し、その割合は61%です（2018年度）。中国の済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス タイ、シスメックス ベトナム、ハイフェンバイオメッドなど海外のグループ会社でも組合を結成しています。

労使の対話

グループ各社で労働組合との対話を実施

シスメックス株式会社では毎年シスメックスユニオンとの団体交渉を実施しています。

2018年度には定例の労使協議会に加え、適宜労使間協議を行い、健康経営の推奨や働き方改革を含めた労務時間管理、福利厚生制度などの各施策について議論しました。このような組合との対話は海外のグループ会社でも実施しています。

従業員の声を経営に反映

- ▶ [働きやすい職場環境の確保についてはこちらをご覧ください。](#)

人権の尊重

人権の尊重に関する方針と取り組み

国連グローバル・コンパクトへの参加と世界人権宣言、ILO 中核的労働基準の支持

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードに「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」を掲げ、全ての従業員の人権を尊重した企業経営、職場環境づくりに取り組んでいます。これは「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」ことを規定した世界人権宣言、仕事で守られるべき最低限の労働基準を定めたILO 中核的労働基準の趣旨に則ったものです。このような考えに実効性を持たせる狙いから、差別、ハラスメント（嫌がらせ）、強制労働・児童労働を禁止するために遵守すべきルール、行動のガイドラインを明文化するとともに、さまざまな研修を通して従業員の啓発を行っています。2011年2月には国連グローバル・コンパクトに参加し、「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則への企業姿勢を明らかにしました。

また、ヒトゲノム・遺伝子解析研究および臨床研究にあたっては、関連法規制などへの対応を行うとともに、被験者の人権への配慮を徹底するために社内に委員会を設置し、研究倫理に関する具体的な規程を設けています。

[グローバルコンプライアンスコードについてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 631KB\)](#)

▶ [研究倫理についてはこちらをご覧ください。](#)

人権リスクの特定（人権デュー・デリジェンス）

シスメックスでは、グローバルコンプライアンスコードの「8. 人権の尊重と安全・衛生の向上」に基づき、自社内にとどまらず、サプライチェーン全体の事業活動における人権への影響を特定し、負の影響を防止・緩和していく「人権デュー・デリジェンス」の取り組みが必要であると考えています。具体的には、取引先に対するCSR調査項目の中に「強制労働・児童労働の禁止」「男女・障がい者・人種等に対する差別の排除」などを盛り込み、シスメックスの活動が人権侵害に関与・加担することのないよう、人権への影響を事前に把握し、予防的に対処するしくみを整えています。またシスメックスでは「英国現代奴隷法」が発効したことを受け、シスメックス UKがホームページに声明文を公開するなど、同法に適正な対応をしています。

- ▶ [「英国現代奴隷法」の対応についてはこちらをご覧ください。\(シスメックス UKのホームページ\)](#)
- ▶ [サプライチェーンにおける人権に配慮した調達方針についてはこちらをご覧ください。](#)

人権に関する相談・通報制度

シスメックスでは、国内外で内部通報制度を設置し、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントをはじめとする人権相談を受け付けています。

▶ [内部通報制度についてはこちらをご覧ください。](#)

人権の尊重を理解するための教育・啓発

人権侵害防止に向けた教育を実施

シスメックスは、ハラスメント（嫌がらせ）の防止や、労働に関する正しい知識の浸透などを目的とする教育を実施し、人権侵害の防止に努めています。

2018年度は新任役職者向け研修で、LGBT[※]を含むハラスメント、労務管理に関する研修を約100名に行った他、新入社員、中途採用者に対しても研修を実施しました。

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った性的マイノリティの総称

社会貢献活動

社会貢献方針

シスメックスは、豊かな健康社会、生き活きとした地域社会作りにつながる社会貢献活動を積極的に行うとともに、従業員の主体的な社会貢献活動を支援します。

- **豊かな健康社会への貢献**

ヘルスケア企業としての特徴を活かした社会貢献活動を積極的に展開し、より豊かな健康社会づくりに貢献します。

- **生き活きとした地域社会への協力**

「企業市民」として社会と価値観を共有し、社会貢献活動への賛助ならびに自らもその活動に参画することにより、生き活きとした地域社会の実現に協力します。

- **従業員の社会貢献活動への支援**

従業員がグループの一員であることに誇りを持ち、市民として社会貢献活動を主体的に実践できるように支援します。

2012年5月制定

シスメックスは、Sysmex Wayの行動基準の「社会に対して」および「社会貢献活動方針」に基づいた活動を行うことにより、豊かな健康社会づくりと生き活きとした地域社会づくりに貢献していきます。

豊かな健康社会づくり

寄附講座の開設を通じた医療への貢献

2004年から、神戸大学大学院医学研究科に寄附講座「立証検査医学（シスメックス）」を開設し、新規の臨床検査技術の共同研究を進めてきました。同講座では、当社の中央研究所と共同で、HDL（高比重リポタンパク）機能の評価により心疾患のリスクを高精度かつ簡便に診断する技術の開発を行い、HDL機能の冠動脈疾患リスクマーカーとしての可能性を見いだすなどの成果をあげています。

また、2017年度からは外科学講座 国際がん医療・研究推進学分野に2つの寄附講座を開設し、人工知能・ロボット技術などの最先端テクノロジーの外科領域への導入と、低侵襲かつ根治を実現するがんの外科治療法の確立を目指した取り組みを進めています。当社は寄附講座と連携し、自社が保有するリキッドバイオプシー技術や、メディカロイドのロボット技術を活用することで、次世代医療や新規医療機器の研究開発を促進します。

財団を通じた医療への貢献

東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）の創業者故中谷太郎が1984年に設立した「財団法人中谷電子計測技術振興財団」は、2012年に「公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団」と改称し、医工計測技術分野における先導的技術開発の助成を中核事業として、研究者への表彰、技術交流への助成などを行っています。

設立30周年を迎えた2014年度以降事業を順次拡大しています。小中高校の科学教育振興のための助成、理系学部生の国際交流プログラムに続き、2017年度には医工計測技術分野で博士号取得を目指す大学院生に対する奨学金（給付型）および5年間で総額3億円の長期大型の研究助成を開始しました。現在では、小学生から研究者にいたるまで幅広い人材育成・支援を行っています。

2018年度の助成金・報奨金などの総額は約5億3千万円でした。

〈創立50周年記念事業〉グローバル社会貢献活動

シスメックスは、2018年に創立50周年を迎えました。節目となるこの年に実施した記念事業のうち社会貢献活動では、グローバル統一テーマ「より健康な社会をめざす」を掲げ、がん・感染症・生活習慣病・認知症/アルツハイマー病・献血の5つのキーワードを軸に活動を展開し、全世界で延べ約13,000名が参加しました。

世界各地でさまざまな活動が行われる中、日本では、公益財団法人 日本対がん協会が主催する「リレー・フォー・ライフ」に参加しました。「リレー・フォー・ライフ」とは、がん征圧を目指すがん患者や共に戦う人々を励まし支援するチャリティー・イベントです。国内10カ所で行われたこのイベントに、当社従業員約100名がボランティアとして参加しました。

主な活動一覧

テーマ	内容	実施会社
医療に関する物理的支援	2018年に発生した西日本豪雨の際に、被災した医療機関に対して、検査に必要な精製水や試薬容器などの物資を提供	シスメックス株式会社
	消防署などに、血球計数検査機器、尿検査機器、および試薬などを提供	シスメックス フィリピン
	中華民国血液病学会が選定する個別化医療に関する優秀な研究に対してSysmex Award贈呈を開始	シスメックス 台湾
啓発活動	がん撲滅・がん患者支援のためのチャリティラン・チャリティウォークに参加	シスメックス アメリカ シスメックス UK、オックスフォード ジーン テクノロジー シスメックス カナダ
	がん患者のために髪の毛を寄付する「Hair for Hope」に参加	シスメックス アジア・パシフィック シスメックス マレーシア
	教育・啓発のための絵本を作成	シスメックス株式会社
	サラセミア（遺伝子異常によって溶血性貧血をきたす遺伝性疾患）、HIVの啓発活動実施	シスメックス インドネシア
国際協力事業への貢献	JICA研修生の受け入れ（計110カ国800名以上） （1994年からの累計）	シスメックス株式会社
寄付・協賛	小児患者への寄付、物品寄贈 例： 腎臓疾患を抱える子どもたちへの支援団体「Kidney Kids NZ」への寄付（ニュージーランド）など	シスメックス 上海 シスメックス フィリピン シスメックス マレーシア シスメックス パルテック シスメックス アイノスティクス シスメックス ニュージーランド



リレーフォーライフ（シスメックス株式会社）



Macmillan Cancer Support（シスメックス UK）



Breast Cancer Walk（シスメックス アメリカ）

活き活きとした地域社会づくり

第8回神戸マラソンに協賛

シスメックス株式会社は、阪神・淡路大震災からの復興に手を差し伸べていただいた皆様への感謝の気持ちを込めて毎年神戸で開催されている「神戸マラソン」に、第1回大会から継続して特別協賛しています。

2018年11月に開催された第8回大会にも特別協賛し、ランナーゼッケンなどを提供する他、同時開催の「神戸マラソンEXPO」にも出展しました。また、ボランティアによる大会運営支援を実施しました。



従業員による給水ボランティア

地域の方々との交流イベントを開催

シスメックスは、地域住民の方々を当社施設にお招きし、交流を深めるイベントを毎年開催しています。2018年5月にはテクノパークの庭園を開放し、近隣住民の方々に散策を楽しんでいただくイベントを開催し、約800名にご来場いただきました。当日のメインイベントとしてはがん、アルツハイマー病、糖尿病をテーマとした「健康セミナー」や当社の主力事業である血液検査をより知っていただくための「血液講座」などを開催しました。



テクノパークフェスタ（シスメックス株式会社）

低所得者向け住宅の修復支援活動とCompanies That Care Honor Rollの受賞

シスメックス アメリカは、世界70カ国以上で低所得者に住まいを提供するための活動を行っている国際NGO「Habitat for Humanity」の活動を支援しており、それらの家の修復費用の寄付および従業員ボランティアによる支援を行っています。また、「Companies That Care Honor Roll 2019」（米国NPO法人Companies That Care主催）を11年連続で受賞しました。同賞は、リーダーの育成や従業員の報酬・福利厚生の実施、ワークライフバランス・働きやすい職場環境の推進、および地域でのボランティア活動などで優れた取り組みを実施している企業が選定されるものです。



低所得者向けの住宅の修復支援活動「Habitat for Humanity」（シスメックス アメリカ）



「Companies That Care Honor Roll」を11年連続で受賞（シスメックス アメリカ）

主な活動一覧

テーマ	内容	実施会社
次世代育成	「血液」「遺伝子」「健康診断」に関する出前授業を実施	シスメックス株式会社
	企業、大学、研究機関と交流するイベント「サイエンスフェア in 兵庫」に参加	
	学生の職業体験、インターンシップの受け入れ	シスメックス株式会社 Oxford Gene Technology IP Limited (OGT)
地域振興・文化の発展支援	「みなと異人館」の一般公開	シスメックス株式会社
スポーツ振興への支援	フィギュアスケート三原舞依・坂本花織選手との所属契約を継続	シスメックス株式会社
	サッカーJリーグ「ヴィッセル神戸」に協賛	
自然保護	「シスメックスの森」での森林保全活動や、自然環境理解を促す「森林観察会」を実施	シスメックス株式会社
地域社会	「神戸ハイテクパーク工業会」を通じた活動 <ul style="list-style-type: none"> 地域一斉清掃活動 交通安全セミナー参加 など 	シスメックス株式会社
	貧困家庭のための食料支援	シスメックス スペイン シスメックス ニュージーランド
	入院中の子どもたちや孤児たちへの寄付・支援 例： プレゼントの贈呈 クリスマス会の開催 従業員ボランティアによる病棟の壁への描画 孤児たちの朝食招待 など	シスメックス ポルスカ シスメックス 上海 シスメックス マレーシア シスメックス フィリピン シスメックス コリア



出前授業の様子
(シスメックス株式会社)



韓国小児白血病患者さんの支援
(シスメックス コリア)

従業員の社会貢献活動

シスメックスは、社会貢献活動方針で従業員のボランティア活動支援を表明するとともに、ボランティア休暇制度を設けて制度面でも支援するなど、従業員の主体的なボランティア活動を奨励しています。

活動を促進するため、従業員が地域のボランティア活動に参加したり、会社主催の社会貢献活動に参加するとポイントが付与される「社会貢献ポイント制度」を設け、ポイントに応じて会社が寄付を実施しています。この制度には国内グループ従業員の約60%である2,120名が参加し、その結果、約230万円分を寄付することができました。また、社会貢献ポイント制度の寄付先の一つであるNPO法人ジャパンハート主催の「小児がん患者とその家族をキザニア甲子園に招待するイベント」や「小児病棟でのプラネタリウムイベント」に、当社従業員がボランティアとして参加し、参加者の付き添いや写真撮影などのサポートを行いました。

各事業所では従業員が企画した社会貢献活動を行っており、古本や古着などをNPO法人などへ寄付する活動などを実施しました。



(左) © UNICEF/UNI1 50956/Asselin
 (中央) © UNICEF/UNI1 08970/Asselin
 (右) © UNICEF/UNI1 79689/Markisz
 提供：(公財)日本ユニセフ協会

国内グループ従業員の約60%、2,120名が参画し、
 約230万円を寄付
 抗マラリア薬：約105,000錠(ユニセフ)、小児がんを抱える子どもと家族の旅行・
 外出への医療者付き添い支援など(ジャパンハート)



小児病棟プラネタリウムイベントでの
 ボランティア活動



キザニア甲子園でのボランティア活動

献血時に用いる検査機器を提供しているシスメックスでは、従業員も積極的に献血活動に参加しています。

シスメックス株式会社は、2014年度から「献血サポーター企業」に登録し、6月と10月を献血月間として、国内グループ会社を巻き込み活動を展開しています。世界各地でも、定期的に献血活動を行っており、グループ全体で約1,700名の従業員が献血に参加しました。

同様に6月と10月を環境月間にも制定し、国内グループ会社で清掃活動を推進しています。



各地での献血活動



環境マネジメント

環境に関する方針

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品・サービスのライフサイクル、および事業活動のバリューチェーンにおいて、環境マネジメントを推進し、気候変動の緩和への貢献、持続可能な資源の利用（廃棄物削減、リサイクル、水の保全）、生物多様性の保全、化学物質の適正管理に努めます。
3. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを順守します。
4. 環境パフォーマンスを向上させるために、環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品・サービスが環境に与える影響を最小限にするように努めます。
5. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
6. 環境方針から環境目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2018年4月改定

[グローバルコンプライアンスコード「11.地球環境の保護」](#) もあわせてご覧ください。(PDF形式 / 631KB) 

シスメックス・エコビジョン2025

「シスメックス・エコビジョン2025」の制定

シスメックスでは「シスメックスグループ長期経営目標」の策定にあわせて、新たに「シスメックス・エコビジョン2025」を制定しました。これは、シスメックスが2025年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、これまで以上に、開発・生産・販売・サービス&サポートなどの製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体の環境保全を推進するものです。

長期環境ビジョン

製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーンにおける、2025年度までの環境目標を設定し、地球環境の保全に取り組みます。

1. CO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献します。
2. 資源消費の削減と資源循環を推進し、地球資源の持続可能性向上に貢献します。
3. 事業活動と自然環境のつながりを認識し、生物多様性の保全に貢献します。

長期環境目標（2025年度）



※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

▶ 詳細データは環境データのページをご覧ください。

TCFD提言への対応

近年、気候変動が与える影響は、金融市場において大きなリスクとなってきています。2015年12月に金融システムの安定化を図る国際組織、金融安定理事会（FSB）が「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」を立ち上げ、2017年6月には気候関連の「リスク」と「機会」が企業の財務に及ぼす影響を開示するよう、最終提言を行っています。

シスメックスはTCFD提言で開示が求められている以下の情報について整理を行いました。

1. ガバナンス

▶ 気候変動リスクのガバナンス体制については、こちらをご覧ください。

2. リスクマネジメント

環境マネジメントシステムの中で事業活動が環境に与える影響を、「法令遵守」と「環境への影響」の2つの観点から毎年評価しています。また、気候変動に関してTCFDの提言を踏まえ、気候関連のリスクと機会のアセスメントを行い、環境管理委員会および代表取締役が議長を務める経営会議で議論しました。これらを通じて、リスクの低減および事業機会の創出に取り組んでいます。

また、リスクマネジメント体制の中で、環境や気候変動以外のリスクも含め包括的なリスクアセスメントを2年に1回実施しています。

▶ リスクマネジメント体制についてはこちらをご覧ください。

3. リスクと機会

TCFD提言の枠組みに従って、代表取締役が議長を務める経営会議で気候変動がもたらすリスクと機会を特定しました。

リスク	シナリオ	取り組み
移行 リスク	<ul style="list-style-type: none"> 法規制の変化により、特定の物質や技術の使用が禁止され、製品供給が困難または高額な代替品が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の統括拠点を中心に品質保証・薬事部門を設置し、専任スタッフが各国の法規制に対応
	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素製品の製品開発に過剰または過少な投資を行い、投資損失または機会損失が生じる 	<ul style="list-style-type: none"> 病院検査室の要求や市場・業界動向を踏まえた製品・技術開発
	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーコストや原材料コストが増大する 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー対策、設備の効率化 再生可能エネルギーの導入
	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の環境意識の変化により、当社製品の環境負荷に対して批判が生じ需要が低下する 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の声を製品開発や品質改善に活用するしくみ（VOC：Voice of Customer）の構築
物理的 リスク	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な自然災害や地域的な水不足により製品やサービスの安定的な供給が困難になる 	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画（BCP）を策定し、原材料の調達先や供給体制、輸送ルートなどリスクの分散化を実施
	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な温暖化により安全衛生環境が悪化し従業員の疾病率が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生」の確保を明示し、職場巡回によるリスクの把握などさまざまな活動を展開

機会	シナリオ	取り組み
資源の効率	<ul style="list-style-type: none"> より効率的な輸送手段の利用やIoT活用によりオペレーションが最適化される 	<ul style="list-style-type: none"> 物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しや梱包改革によるCO₂削減の推進 ネットワークソリューションCaresphere™などを通じたリモートサービスの提供
エネルギー源	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー化によるエネルギーコストの削減や低炭素エネルギーへのシフトによる社会的評価が向上する 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ対策、設備の効率化 再生可能エネルギーの導入
製品およびサービス	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の購入意識の変化により、環境配慮製品の購入が促進される 長期的な疾患動向の変化により新たな検査機会が創出され、検査需要が拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した製品開発 マラリアなどの感染症対策に寄与する製品開発
レジリエンス（回復力）	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害発生時における製品・サービスの安定供給により、顧客からの信頼が向上する 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな供給体制、原材料の複数調達によるバックアップ体制の構築

環境マネジメントシステム

グループ環境マネジメント体制

シスメックスは、グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、常務執行役員が務める環境マネジメントオフィサーの統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。環境目標はグループ経営計画の一部に統合し、取締役会の監督と執行役員制度による意思決定スピードを高めた業務執行を行っています。

ISO 14001 認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001の取得を進めています。2019年4月末現在、グループ16社で認証を取得し、認証取得拠点の売上比率は68%となっています。

また、一部では活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために環境活動を一元化し、シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスRA、シスメックスメディカの4社9拠点で、統合認証を取得しています。この結果、環境経営に関わる情報を体系的に共有することが可能となりました。

ISO 14001 認証取得状況

地域	会社名
日本	シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスメディカ、シスメックスRA
米州	シスメックス アメリカ、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス ブラジル
EMEA	シスメックス ヨーロッパ※、シスメックス ドイツ、シスメックス フランス、シスメックス スペイン
中国	シスメックス 無錫、済南シスメックス
AP	シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス インディア、シスメックス ニュージーランド

※ ISO 50001もあわせて取得

環境監査の実施

ISO 14001認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的の実施しています。

2018年度は、認証統合している国内グループ4社9拠点の内部環境監査で不適合が0件、外部環境審査では軽微な不適合が1件見つかりましたが、是正対応を完了しています。

環境教育

環境教育・訓練の実施

シスメックスでは、グループの環境活動やそれぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するための全従業員向け一般教育と、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対する実務知識習得のための専門教育を実施しています。さらに、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練なども行っています。

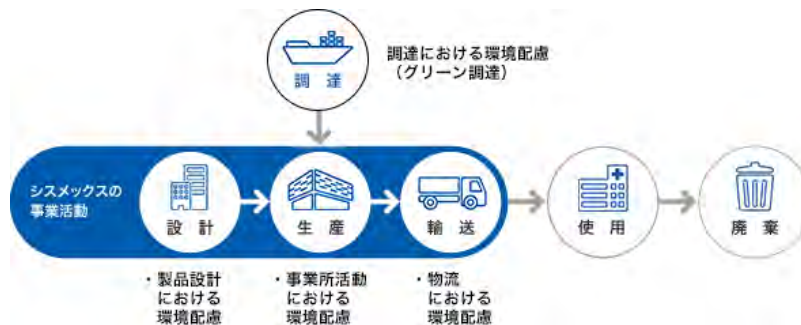
2018年度は、ISO統合認証の適合事業所に所属する全従業員向けのeラーニングによる環境一般教育と、事業所担当者および製品ライフサイクル部門の担当者向けの法規制セミナーを実施しました。

環境（環境への配慮）

製品ライフサイクルにおける環境配慮

製品ライフサイクルと各段階での取り組み

シスメックスでは、製品ライフサイクル全体での環境負荷を低減するよう、あらゆる事業活動の段階で、さまざまな取り組みを実施しています。



- ▶ 事業所活動における環境配慮については、「事業所活動における環境負荷低減：気候変動」「事業所活動における環境負荷低減：資源循環」「事業所活動における環境負荷低減：汚染防止」をご覧ください。
- ▶ マテリアルバランスの詳細については、「環境データ」をご覧ください。

環境に配慮した製品・サービス

製品設計における環境配慮

シスメックスでは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の低減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関する規程を制定して、検体検査機器の省電力化、試薬使用量の低減などに向けた技術開発に取り組んでいます。

取り組み事例

方法	取り組みの効果
試薬濃縮化	<ul style="list-style-type: none"> • 容器・包装材料の省資源化 • 検査室で発生する廃棄物の大幅削減 • 重量や容積を抑えることによる輸送効率の向上とCO₂の排出量削減
環境に配慮した原料の使用	環境や安全性に配慮した試薬に切り替えたことにより、廃液の中和剤処理が不要に。

XNシリーズの試薬は従来試薬の25倍濃縮試薬



原料物質の生産における環境配慮

シスメックスでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組み換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。従来、これらの原料の生産には多くのエネルギーを消費していましたが、遺伝子組み換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、安定供給が図れるとともに、省エネルギーや廃棄物削減も期待できます。

2017年度に発売を開始した試薬「レボヘムPT」の原料にも、カイコから生産したタンパク質を用いています。これは、国産では初めて薬事認証されています。

また、この技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業から注文をいただいています。

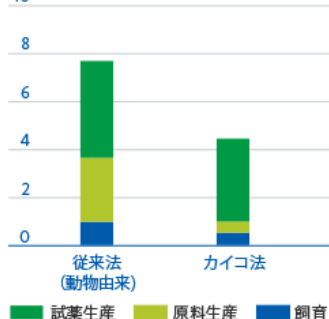


カイコを利用した原料生産

カイコ法使用時における従来法との比較（レボヘムPT）

【CO₂排出量】

((kg-CO₂e/Lot) × 10³)



【水資源】

((m²/Lot) × 10²)



※ 自社製品による比較（東京都市大学との共同研究による）

環境に配慮した調達（グリーン調達）

取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

シスメックスは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

また、毎年各取引先に対して実施しているCSR調査では、環境管理に対する方針の有無、CO₂削減や省エネルギーに関する目標、計画の有無などを確認しています。

▶ 調達方針についてはこちらをご覧ください。

[グリーン調達に関する開示情報の改定・更新履歴 \(PDF形式 / 272KB\)](#)

グリーン調達基準

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

1. 目的

シスメックスグループは、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に意欲的なサプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の発展を目指します。

2. グリーン調達の方針

シスメックスグループは、調達活動における、当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤー様も含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため『グリーン調達』を実施します。グリーン調達の具体的な取り組みとして、以下の2項目を推進します。

- 1) 環境負荷が少ない原材料、部品の調達を推進します。
- 2) 環境保全に意欲的なサプライヤー様との取引を拡大します。

3. 適用範囲

シスメックスグループにおける原材料・部品および製品の調達活動に適用する。

4. 製品使用化学物質の管理

シスメックスグループは、開発・製造する製品に使用する原材料・部品の選定にあたっては、必要な品質・機能・経済的合理性に加え、環境負荷を低減するため、以下に示す化学物質を使用していない原材料・部品を採用するものとします。

- 1) 製品に使用する化学物質の制限で定めている禁止物質を含有していないこと
- 2) 製品に使用する化学物質の制限で定めている化学物質の含有量が把握されていること
- 3) 使用にあたり、化学物質、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染発生等の環境負荷が低いこと
- 4) 資材に関する環境情報を公開していること
- 5) 梱包材についても、上記内容と同様、化学物質の含有量削減等がなされていること

以上

2014年11月改定

1. 環境マネジメントシステムの構築と運用のお願い

シスメックスグループは、お取引を開始するにあたり、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されていることを明らかにしていただくため、第三者による環境マネジメントシステム認証の有無を確認させていただきます。

- 1) ISO14001の認証
- 2) 簡易版の環境マネジメントシステムの認証

2. 原材料、部品の環境情報提供のお願い

シスメックスグループは、シスメックスの環境保全活動にご協力いただくため、サプライヤー様に次に示す環境情報の提供をお願いしております。

- 1) 原材料、部品に含まれる有害化学物質データ
- 2) 欧州RoHS規制物質の不使用証明書
- 3) 欧州RoHS規制に適合した原材料、部品の情報

3. サプライヤー様の外注先様に対する環境対応のお願い

シスメックスグループは、サプライヤー様が取引されている外注先様につきましても、環境マネジメントシステムの構築と環境情報の提供にご協力いただくことをお願いしております。この外注先様につきましては、サプライヤー様が責任を持って管理いただくことをお願いしております。

以上

2014年11月改定

禁止物質、削減物質、対象国を明示

グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質（環境負荷物質）への対応について、以下に開示しています。

1. 禁止物質（使用を禁止する物質）2019年5月31日改訂

[禁止物質 \(PDF形式 / 688KB\)](#) 

2. 削減物質（削減を必要とする物質）2019年5月31日改訂

[削減物質\(PDF形式 / 1.3MB \)](#) 

3. 対象国一覧（禁止物質・削減物質の根拠となる環境関連法令対応を意図する国および地域）2019年5月31日改訂

[対象国一覧\(PDF形式 / 285KB \)](#) 

環境に配慮した物流

製品の国内・域間物流のCO₂排出量削減活動

グローバルに事業拡大を続けているシスメックスは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しおよび梱包改革による、CO₂排出量の削減を進めています。

2018年度の実績

2018年度は、国内外で多くの災害が発生し、緊急の輸配送が多発したことなどにより、CO₂排出量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度から1%増加しました。

物流プロセスの見直しによる効果

方法	見直しによる効果
輸送効率化	中国地域、アジア・パシフィックに続き、ドイツに域内物流ハブ倉庫を設置し、同地域向けの輸送を集約することでCO ₂ 排出量を削減
積載シミュレーション	輸送回数を削減するための積載シミュレーションの強化を継続。災害多発による突発的な輸配送が増えたにもかかわらず、コンテナ積載率は64%以上と高い水準を維持

梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスでは省資源のために国内向けの製品輸送にリユース梱包材を活用しています。2018年度は、遺伝子変異解析セットの輸送用に繰り返し利用できる専用箱を導入しました。品質に直結する輸送温度の維持および顧客への配送業務の向上に加え、リユースが可能となり、廃棄物削減による環境負荷の低減にも貢献しています。

遺伝子変異解析セット（がんゲノムプロファイリング検査用）輸送用箱



ダンボール箱

リユース箱

環境（環境への配慮）

事業所活動における環境負荷低減：気候変動

温室効果ガスの排出量削減

事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

各事業所では、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するために、さまざまな活動を進めています。

2018年度の実績

温室効果ガス排出量（連結売上高原単位）は、シスメックス・エコビジョン2025の目標である対基準年度（2016年度）50%削減に対し、21%削減となっています。

温室効果ガス排出量削減の取り組み

取り組み	会社名	内容
省エネ対策	シスメックス株式会社	電力監視システム（デマンド監視機能）※1の設置による電力使用量の総量把握および管理と、その分析により事業所の特性にあった省エネ対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> 夏期・冬期の室温管理の徹底 階段照明などへの人感センサーの設置 省エネ空調設備への更新 LED照明の導入
	シスメックスRA	<ul style="list-style-type: none"> 工場の二重窓化による気密性の向上 空調機の稼働時間見直しによる節電
設備などの高効率化	シスメックス株式会社	ソリューションセンターで、ガスを使用しない高効率型の空調設備への切り替え
	シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 全ての照明をLEDに交換 社用車を燃料効率の良い車両に変更
	シスメックス ヨーロッパ	主要な試薬充填室の照明をLEDに交換
	シスメックス 無錫	保冷库の冷媒を温暖化係数の小さい冷媒に転換
再生可能エネルギーの導入	シスメックス株式会社	アイ スクエアで、太陽光パネルを設置、また作業場所に自然光を採り入れることで使用電力をセーブ
	シスメックス ヨーロッパ	100%再生可能エネルギーの電力を使用
	シスメックス UK	電力の一部に再生可能エネルギーを使用
従業員への啓発	シスメックス マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時にハイブリッド車を使用している従業員に「グリーンナーシスメックスポイント」を付与し、エネルギー使用量・CO₂排出量を削減 NGV（天然ガス自動車）のタクシーおよび空港リムジンの利用を奨励
	シスメックス アイノスティクス	通勤時に公共交通機関を利用する従業員への補助
	シスメックス インディア	通勤時に利用している従業員の自家用車は全て、PUC証明※2を受けたものであることを確認

※1 24時間連続して最大需要電力（デマンド値）を計測し、設定した目標値を超過しそうになると警報を発信したり、電気の使用状況を日報、月報で報告する機能

※2 PUCとは、Pollution Under Controlの略で、車からの排出ガスが公害規制基準値以下であることを証明するもの。インドでは法律により、半年に1度のPUCテストを受け、PUC証明を受けることが義務付けられている。（新車のPUC証明の有効期限は1年間）

[環境データの詳細についてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 871KB\)](#) 

国内社用車のCO₂排出量削減

約400台ある国内の社用車の燃料消費量を抑え、CO₂排出量を削減するために、イントラネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図っています。また、低燃費車やハイブリッドカーの導入、社用車の削減も進めています。

2018年度の実績

- 約20台の社用車の削減
- CO₂排出量約10%削減（2017年度比）

関連法規制の遵守

省エネ法に基づき、シスメックス株式会社の年間エネルギー使用量を集計した定期報告書とエネルギー削減計画をまとめた中長期計画書を経済産業省へ提出しています。今後も努力目標達成の維持を目指して、国内グループ全社の省エネルギー活動を推進していきます。

環境（環境への配慮）

事業所活動における環境負荷低減：資源循環

廃棄物の管理とリサイクル

廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

シスメックスは、廃棄物の削減やリサイクル率向上に継続的に取り組んでいます。

2018年度の実績

事業が拡大したことによる事業所拡張、従業員数の増加などにより、廃棄物総量は増加しました。また、環境データ対象範囲の拡大により、リサイクル率は76%と昨年度から13%低下しました。

廃棄物量削減の取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 埋め立て処理していたガラスくずを道路舗装材料へ再生処理するリサイクルである、ガラスくずのマテリアル リサイクルを実施 遺伝子変異解析セット（がんゲノムプロファイリング検査用）の国内向け輸送用箱を、ダンボール箱から繰り返し利用できるリユース梱包箱に切り替え、ダンボール箱の廃棄を削減
シスメックスRA	エタノール再生装置を導入し、排出後、焼却処理されていた廃エタノールの排出量を約7分の1に削減
シスメックス マレーシア	ダンボール箱、プラスチック材料のリサイクルおよび慈善団体への寄付
シスメックス 無錫	購買品の包装用PE袋を生活用ごみ袋として再利用

環境データの詳細についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 871KB) [📄](#)

水資源の有効利用

水使用量削減と適切な排水処理

シスメックスは中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な社会的責任の一つと位置付けて、シスメックス・エコビジョン2025で水使用量の削減目標を設定し、各拠点で水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。

2018年度の実績

水使用量原単位は、シスメックス・エコビジョン2025の目標に対し、基準年度（2016年度）排出量（連結売上高原単位）から7%削減となっています。

各事業所の主な取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	生産効率の改善を進め、工数削減を図るとともに、水使用量を低減
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none">超純水プラントを改良し、工場が稼働していない時間帯を利用してRO水（純水）排水をリサイクル水使用量削減のために原水脱気装置を設置
シスメックス インディア	浄化処理後の工場排水をリサイクルし、工場内の緑地へ引いて水やりを使用

環境データの詳細についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 871KB) [📄](#)

紙使用量の削減

資料の電子データ化を推進

シスメックス株式会社ではパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを活用した電子データの送受信でペーパーレス化に取り組んでおり、それによって業務効率の向上と紙使用量および廃棄量の削減を実現しています。

電子データを会議参加者に事前配布することで議案についての確認・検討が可能となり、その結果、会議の効率が向上しただけでなく時間の短縮にもつながっています。保存を前提とした紙の資料を使わないことは社内情報が漏えいするリスク低減にもつながります。シスメックス コリアでは、稟議承認のためのシステムを2017年に導入し、年間2万枚の紙を削減することができました。さらに、サプライヤー様向けの製品部品図面を、紙ではなく電子データで提示することでも紙使用量を削減しています。

環境（環境への配慮）

事業所活動における環境負荷低減：汚染防止

化学物質管理

有害物質の貯蔵・使用状況の把握と管理

シスメックスでは製品の研究開発や生産工程で化学物質を扱っています。そのため紛失・漏えいの防止はもちろん、現場で作業に従事する従業員に健康被害が及ばないように化学物質の適正管理に努めています。

有害物質の管理方法

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 薬品管理委員会を設置し、薬品事故の低減、関連部門への教育など、管理体制を強化 学術実験室において「学術本部実験室管理基準」に基づき薬品管理を徹底
シスメックス国際試薬	IDカードや指紋認証により、登録者以外の劇物危険物保管庫への入室を禁止

有害廃棄物の排出・排水、大気への排出に関する管理・処理

有害廃棄物の管理・処理

生物由来の物質による万が一の感染の危険性に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。

排水管理・処理

シスメックスでは水質の保全を重視し、化学物質を扱う開発拠点や工場からの排水で河川や地下水に影響が及ばないように独自の排出基準を設定し、管理しています。

排水管理・処理方法

会社名	方法
シスメックス国際試薬	小野工場でBOD（生物化学的酸素要求量）の基準値を超えた場合にアラーム（警報）を発出するシステムを導入し、有機物を含む廃液の流出を未然防止
シスメックスRA	廃液処理装置を導入し、感染性廃液を加熱滅菌で無害化して直接下水へ排出
シスメックス アメリカ	排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液からホウ素含有物を除去
シスメックス アジア・パシフィック	排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液を下水道に排出する前に浄化

大気への排出に関する管理・処理

国内のグループ会社では、2015年4月1日に改正施行されたフロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを作成し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。

生物多様性保全

生物多様性との関わり

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用しており、また他にも事業活動を行うにあたり地球上の生物から多くの恩恵を受けています。そのため、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置付けるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

- ▶ [診断薬における動物由来タンパク質原料（遺伝子組み換えカイコ）の切り替えについてはこちらをご覧ください。](#)

森林保全活動

「シスメックスの森」を通じて、生物多様性保全に貢献

2013年度から、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」（17ヘクタール）のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名付け、従業員ボランティアによる間伐作業などを実施し、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。

2018年度は、14回の活動を実施し、延べ171名が参加しました。

「シスメックスの森」での取り組み

取り組み	内容
生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none">• 絶滅危惧種の保全（カスミサンショウウオ^{※1}の生育環境の保全、アサギマダラ^{※2}を呼ぶための植物の植え付けなど）• 希少な野生植物の保存（ササユリの栽培による種の回復、キンラン^{※3}生息地の保護）
教育・啓発	<ul style="list-style-type: none">• 子どもたちが自然との触れ合いを楽しめるプログラムを実施（森林観察会の実施や挿し木、野菜やシイタケ栽培など）• 環境省・農林水産省・国土交通省が主唱する「グリーンウェイブ2018」に登録（国連による「国際生物多様性の日」（5月22日）への参加呼びかけ）

※1 環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている小型のサンショウウオ

※2 その多くが春に日本に飛来し、秋には台湾など南方に約2,000kmもの長距離を移動する珍しい渡り蝶。千葉県のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。

※3 環境省レッドリストで絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。

- ▶ [従業員ボランティアを促進するための制度についてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [「シスメックスの森」についてはこちらをご覧ください。](#)



シスメックスの森（森林整備活動の参加者）



シスメックスの森（アサギマダラ飛来地を目指したフジバカマ栽培）

その他地域での活動

会社名	活動内容
シスメックス ヨーロッパ	試薬生産工場の敷地内で、昆虫の餌となる自生種の種まきを実施
シスメックス スペイン	再生可能エネルギーの推進と環境保全のため、バイオマスエネルギーのプロジェクトに参画
シスメックス ニュージーランド	モタブ島での植樹ボランティアデーに参加し、300本以上の植樹を実施
シスメックス インディア	世界環境デーの活動として従業員による110本の植樹を実施
シスメックス タイ	乾燥地への送水と洪水防止のために竹を使用した砂防ダムを建設



ニュージーランドでの植樹活動



インド試薬生産工場による植樹活動

コンプライアンス コンプライアンスマネジメント

グループ方針

「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。「グローバルコンプライアンスコード」は、日本語だけではなく、英語をはじめとした多言語に翻訳されています。

グローバルコンプライアンスコード全文についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 631KB) [D](#) [G](#)

グローバルコンプライアンスコード (概要)

1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

5. 知的財産権の尊重

私たちは、グループの知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

6. 国際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO 中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品および情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

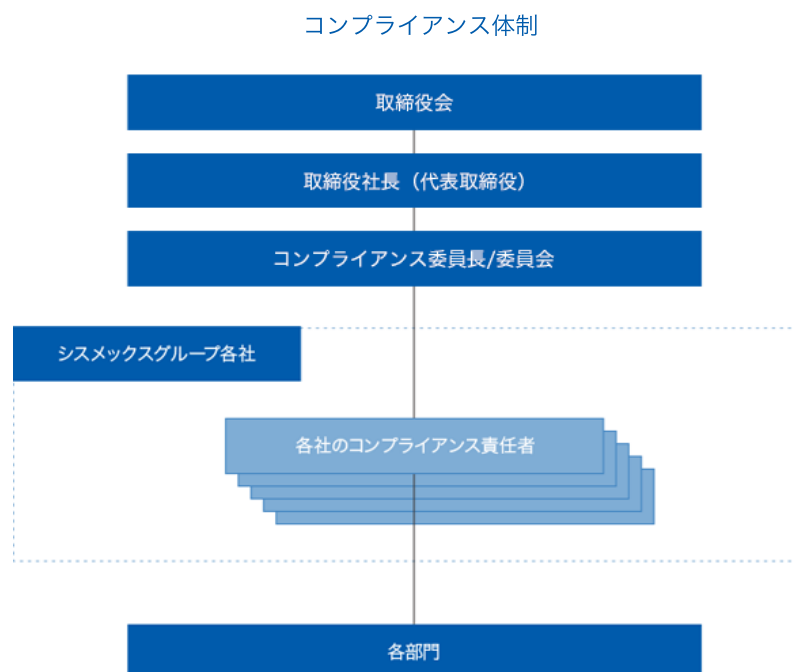
11. 地球環境の保護

私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

コンプライアンス推進体制

シスメックスでは、コンプライアンスに関する社内ルールの整備や従業員のコンプライアンス意識の向上などに取り組んでいます。

コンプライアンス委員会の委員長はグループのコンプライアンス統括責任者として、グループ全体のコンプライアンスを推進しています。また、グループ各社にもコンプライアンス責任者を設置し、各社でコンプライアンスを推進しています。

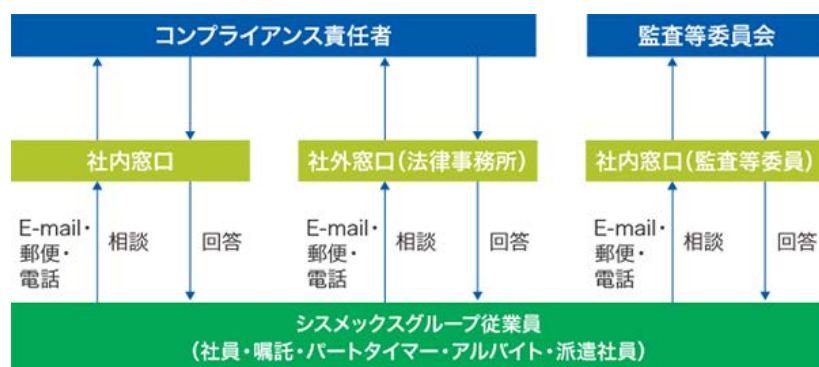


内部通報制度

シスメックスでは、全グループ会社で内部通報制度を設置し、運用しています。

国内においては、内部通報制度「カンパニユラライン」を設置し、贈収賄や人権侵害などを含むコンプライアンス上の問題に関する相談を受け付け、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユラライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電子メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。さらに経営陣に関する相談・通報のために監査等委員による窓口も設けています。寄せられた情報は匿名で取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。

内部通報制度「カンパニユライン」



海外においては、相談・通報窓口は各国の言語に対応しています。

2018年度は国内・海外合わせて14件の相談が寄せられ、それぞれの相談案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。

コンプライアンス教育

コンプライアンス教育を継続して実施

シスメックスではコンプライアンスを徹底するために、従業員などへの教育・啓発活動をコンプライアンス推進のベースと位置付け、グループのコンプライアンス研修プログラムに基づき、各種のコンプライアンス教育を継続的に実施しています。新入社員教育、階層別教育などの機会を捉え、グローバルコンプライアンスコードに則った行動の浸透を図っています。また、公正な取引の促進、贈収賄・インサイダー取引・差別嫌がらせの禁止など、グローバルコンプライアンスコードを詳しく解説したガイドブックなどの教育ツールの充実を図り、各部門、各社での自主的かつ計画的な教育・啓発活動を推進するなどしてコンプライアンス意識の浸透・徹底を図っています。

2018年度の主なコンプライアンス教育実績

(国内)

- 新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- 新任係長を対象にコンプライアンス研修を実施
- 国内グループ従業員を対象に企業秘密管理に関する研修を実施
- 新入社員、中途採用者、新任役職者を対象にLGBT[※]を含むハラスメント、労務管理、労働者派遣法に関する人権研修を実施
- 公正な取引を推進するためのシスメックス プロモーション コード研修等を実施
- 医療機関等との関係の透明性確保のための法令・業界ルールに関する研修を実施

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった性的マイノリティの総称

(海外)

- 新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- 管理職に対するコンプライアンス研修を実施
- 欧州GDPR (EU一般データ保護規則) に関する研修を実施
- 公正な取引を推進するための医療機器業界ルールに関する研修を実施

コンプライアンス

コンプライアンス推進の取り組み

グローバルコンプライアンスコード全文についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 631KB) [📄](#)

腐敗防止

贈収賄防止に関する基準整備、教育実施

シスメックスは、企業の自発的取り組みとして国連が提唱するグローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、その10原則の一つである「企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の徹底を図っています。

世界的な腐敗行為撲滅への機運が高まり、各国の法整備・執行強化が進む中、シスメックスでは、全役員・従業員に適用するグローバルコンプライアンスコード「10.社会との健全な関係の保持」にて贈収賄行為を明確に禁じることに加え、贈収賄防止のための規程において、禁止行為、デューデリジェンス・教育の実施、管理体制などについて定め、グループ内へ周知徹底しています。さらに、各地域固有の法規制・商慣習等に応じた贈収賄防止の取り組みのため、各地域で規程を整備し、遵守を推進しています。

贈収賄防止規程の概要

- シスメックスは、事業の獲得または事業上の便宜の獲得[※]を目的とするなど、不正の利益を得るために提供する金銭その他の有形・無形の一切の利益を、公務員に対してのみならず、公務員以外に対しても提供することを禁止する。
- シスメックスは、新規取引を行う際、および合併・買収を行う際は、事前に相手先の身元、素性、事業内容などの通常の調査を実施するのみならず、公務員などの関係、過去における贈収賄事案への関与の有無などの調査を実施する。
- シスメックスは、取引先などに対する支払いが、賄賂、またはその疑いがある場合には、その支払いを禁止する。
- シスメックスは、グループの役職員を対象とする、贈収賄防止に関する教育・研修を定期的に行う体制を整備し、実行する。
- この規程への違反または違反が疑われる事象については、速やかにコンプライアンス責任者に報告しなければならない。

※ 行政手続きを回避・簡略化する、取引機会を取得・維持する、入札の際の便宜を得る、機密情報を取得することなどを指す。

医療機関等との関係の透明性確保

シスメックスでは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートにいたるまでの全ての段階で医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、高い倫理観に基づいて取引を行う必要があります。

日本では、一般社団法人日本臨床検査薬協会が制定された「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」の理念を踏まえ、会員企業であるシスメックス株式会社、シスメックス国際試薬もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開しています。

米国・フランス・ベルギーでは、企業に対し医療機関との関係の透明性確保を求める法律（サンシャイン法）が制定されており、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を各国当局に報告・公開しており、当社ウェブサイトにも当局サイトで公開されている情報を公開しています。

- [医療機関などへの資金提供に関する情報（ガバナンスデータ）](#)
- [医療機関などへの資金提供に関する情報（日本地域詳細）](#) [📄](#)

一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」はこちらをご覧ください。(PDF形式 / 947KB) [📄](#)

研究倫理

適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4.適正な研究開発活動の実施」において、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令などを遵守するとともに高い倫理観をもって研究開発を行うことを定めています。また「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。

- ▶ 「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」についてはこちらをご覧ください。 [📄](#)
- ▶ 研究倫理審査委員会の活動についてはこちらをご覧ください。

動物実験に対する配慮

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4-4 動物実験」に定められているとおり、動物愛護に関する各国・地域の法令などを遵守し、代替法の使用を優先的に検討した上で必要最小限にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮し、動物実験を行っています。動物実験は公的な指針に準拠した社内規程に従って実施され、「実験管理委員会」により実験計画が規程に準拠しているかを厳格に審議しています。

準拠している指針

- 動物の愛護及び管理に関する法律（環境省）
 - 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省）
 - 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省）
 - 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学術会議）
- ▶ 遺伝子組み換えカイコによる動物由来タンパク質原料からの切り替えについてはこちらをご覧ください。

公正なマーケティング活動

グローバルでのプロモーション活動においては、グローバルコンプライアンスコード「2. 公正な取引と自由な競争の推進」でマーケティングにおける倫理コードを制定しており、世界各地域において、業界基準や自社で制定した基準に基づいた公正なマーケティング活動を推進しています。

日本における活動については、「シスメックスプロモーションコード」を制定しています。2018年度は、日本・東アジア地域の営業部門155名に対し、「医薬品等適正広告基準」「医療用医薬品監視モニター制度」などについて研修を実施しました。

シスメックスプロモーションコードについてはこちらをご覧ください。 (PDF形式 / 314KB) [📄](#)

シスメックスプロモーションコード

1. シスメックスの責務
2. 行動基準
3. 公正な競争及び公正な取引の確保
4. 広告宣伝（プロモーション用印刷物及び広告等の表示）
5. 中傷・誹謗行為の禁止
6. 不公正な比較表作成の禁止
7. 役務の提供

税務戦略

シスメックスは、税の透明性の向上を図るため、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7.適正な会計処理と納税の実施」を定めています。その中で、国外関連者との取引に関しては、OECDガイドラインや各国の移転価格税制などに準拠した適切な移転価格を算定することや、恣意的な租税回避を目的としたタックスヘイブンの利用は行ってはならないことを定めています。

また有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

- ▶ 有価証券報告書はこちらをご覧ください。
- ▶ Sysmex Report (Financial and Other Information)はこちらをご覧ください。

英国における税務戦略（英語のみ）

英国における税務戦略についてはこちらをご覧ください。（英語のみ）（PDF形式 / 26KB）[📄](#)

知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりしないことを、グループの全役員・従業員が遵守すべきルールとして、グローバルコンプライアンスコード「5.知的財産権の尊重」に定め、このルールの周知徹底を図っています。また、新製品開発においては、知的財産部門、研究開発部門、事業推進部門などのメンバーがグローバルにパテントレビューを実施し審議しています。

安全保障貿易の推進

シスメックスではグローバルコンプライアンスコード「6.国際的な平和と安全の維持」で各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引に関与しないことを定めています。不正輸出を防止するため社長直轄の安全保障貿易管理委員会を設置しています。さらに、海外の統括現地法人にも安全保障貿易の管理担当者を置き、グローバルでの運営体制を構築しています。また、年1回、全社員を対象とする基礎的なeラーニングのほか、最新の世界情勢および法規制に関する講習会などさまざまな教育を継続的に実施し、安全保障貿易管理に対する意識向上を図っています。

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

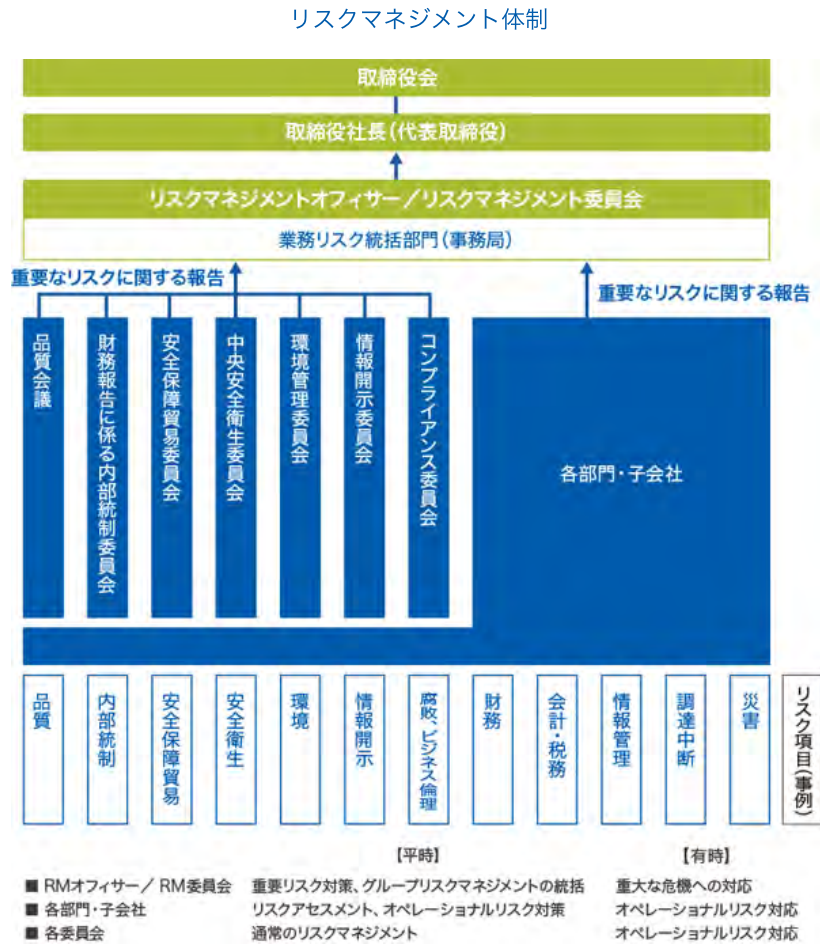
リスクマネジメント体制

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

シスメックスでは、グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、「リスクマネジメント委員会（RM委員会）」を設置し、委員長をリスクマネジメントオフィサーである専務執行役員が務めています。

RM委員会では、腐敗やビジネス倫理などのコンプライアンス、人材、労働安全衛生、環境、納税を含む会計・財務などさまざまなリスクについて定期的に評価を行い、グループとして事業に与える影響が大きなリスクを特定して対策を講じています。

また、RM委員会では、コンプライアンス委員会などの関連委員会および各部門・関係会社を実施するリスクマネジメントの状況をモニタリングするとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合は、その対応について審議するなど、継続的にPDCAを回しています。



▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。

リスクマネジメント 災害対策

災害時に備えた対応（BCP）

シスメックスでは、地震や津波などの大規模災害が発生した際にも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画（BCP）を策定して非常時に備えています。BCPでは、危機発生時にも医療機関において当社製品が安定して稼働し続けられるように、供給を優先すべき重要製品を選定しています。また、災害対策基本規程等の災害対応に関する規程やマニュアルを整備し、緊急時に迅速に対応できる体制を整え、災害発生を想定した模擬訓練も定期的を実施しています。

試薬製品に関しては、主要な原材料の調達先の複数化や地産地消の考えに基づいた生産場所の選定によりリスクの分散を図るとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築、輸送面での代替ルートの確保などを実施しています。2018年度に発生した西日本豪雨、北海道胆振東部地震時にも早期に影響を把握し、対策を取ることができました。

緊急連絡手段としては、「安否確認ツール」を国内グループ会社に導入し、グループ間での安否確認を迅速に行える体制を整えています。また、国内グループ間の各事業所にはデジタル無線機を設置し、通信途絶の際にも連絡が取れる手段を確保し、備蓄品および帰宅支援品も人数分備えています。また、eラーニングによる防災／災害時対応およびBCP周知教育や模擬訓練などを通じ、BCPの実効性向上を図っています。

グループのIT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一災害などの発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ移行できるシステム基盤を構築しています。

情報セキュリティ

情報セキュリティの強化

シスメックスでは、お客様にご使用いただく製品・サービスに対してのサイバーセキュリティ対策に取り組んでいます。グループ全体で、製品セキュリティポリシーを定め、当社製品の設計・製造および市販後のリスク管理への取り組みを開始しています。

また、お客様や研究開発などの実験にご協力いただいた方々からお預かりしている情報や自社の技術情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つと捉え、その顕在化防止に取り組んでいます。グループ共通の情報セキュリティや企業秘密に関するグローバル規程を策定し、情報の外部漏えい防止、サイバー攻撃などへの対策を強化しています。また国内グループ会社では、定期的に情報セキュリティと企業秘密に関するeラーニングを実施しています。

スカイフロントリサーチキャンパスにおいては、遺伝子配列等の個人情報を用いた研究ができるよう、情報セキュリティの強化を行っており、2019年に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）に関する国際規格ISO 27001の認証を取得しました。シスメックスCNAにおいても、サービス・サポート部門において認証を取得し、取り扱う情報の機密性・完全性・可用性を確保しています。

社外からのCSR評価

CSR関連インデックスなどへの組み入れ

世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス（ESG）の非財務の視点から企業の持続可能性（サステナビリティ）を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界ではさまざまなサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックスは持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

- Dow Jones Sustainability World Index^{※1}（2016年度より）
- Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index^{※1}（2012年度より）
- FTSE4Good Index^{※2}（2008年度より）
- FTSE Blossom Japan Index^{※3}（2017年度より）
- MSCI ESG Leaders Indexes^{※4}（2011年度より）
- MSCI SRI Indexes^{※4}（2013年度より）
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数^{※5}（2017年度より）
- MSCI日本株女性活躍指数^{※6}（WIN）（2017年度、2019年度）
- Ethibel Excellence^{※7}（2011年度より）
- Ethibel Pioneer^{※7}（2014年度より）
- Ethibel Sustainability Index（ESI）^{※8}（2015年度より）
- Global 100（世界で最も持続可能な100社）^{※9}（2017年、2016年、2012年）
- Euronext Vigeo Eiris World 120 Index（2018年度）^{※10}
- SNAMサステナビリティ・インデックス（2018年度より）^{※11}

※1 米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobeco SAM社が共同開発したESG投資インデックス。企業のサステナビリティを「経済・環境・社会」の側面から評価し、総合的かつ先進的な取り組みを行っている、長期にわたり持続的な成長が期待される企業を選定している。World Indexは、世界の上場企業が対象。Asia Pacific Indexは、アジア太平洋地域の上場企業が対象。

※2 英国ロンドン証券取引所グループのFTSE Russell社が発表しているESG投資インデックス。世界主要企業の一般に公表されている情報のみを用いたESG評価に基づいて、優れた企業を選定している。

※3 英国のFTSE Russell社が、ESGについて優れた対応を行っている日本企業を選定している。国連の持続可能な開発目標（SDGs）を含む国際基準から導出されたFTSE4Goodの組み入れ基準を活用している。

※4 米国モルガンスタンレーグループのMSCI社（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社）が開発したESG投資インデックス。評価対象企業の産業の特徴を踏まえ、各インデックスの重要度の高いESG課題に絞り込んだ評価に基づいて企業を選定している。

※5 米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い企業を選定している。

※6 米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業を選定している。

※7 ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発した投資インデックス。企業の社会的責任の観点から高いパフォーマンスを示している企業を選定している。PioneerとExcellenceの2種類があり、Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業がPioneerに組み入れられる。

※8 Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、浮動株時価総額などの制約条件に基づいて、構成されているインデックス。

※9 カナダのコーポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）にあわせて毎年発表される。

※10 米国や欧州で多数の証券取引所等を運営するNYSE Euronext社（米国）とESG調査会社であるVigeo Eiris社（フランス・英国）が提携して開発した指数で、欧州・北米・アジアパシフィック地域における、ESGの取り組みに優れた企業上位120社が選定される。

※11 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社が設定するインデックス。ESGの取り組みに優れた企業約300銘柄が選定される。

MEMBER OF
Dow Jones
Sustainability Indices
 In Collaboration with RobecoSAM



FTSE4Good



FTSE Blossom
 Japan

MSCI



2019 Constituent
 MSCI ESG
 Leaders Indexes

MSCI



MSCI Japan Empowering
 Women Index (WIN)



外部からの評価、表彰

2016～2018年度 実績

2019年

- 5月 • FOCUS-Businessが主催する「Top Employer SME 2019」医療機器カテゴリーにて8位に選定
- 4月 • Quest Diagnostics社が主催する「Supplier Excellence Awards」を受賞（シスメックス アメリカ）
- 3月 • NZHIT イノベーションアワードのファイナリストに選定（シスメックス ニュージーランド）
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll[※] 2019」に選出（シスメックス アメリカ）
 ※ 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業を選出する企業ランキング。NPO「Center for Companies That Care」の調査による。
- 2月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の3回目の選定
- 2月 • 平成30年度 第22回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第22回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2018」）

2018年

- 12月 • 第6回WICIジャパン統合報告優良企業賞「統合報告奨励賞」を受賞
- 11月 • 平成30年度 近畿地方発明表彰を受賞
- 11月 • Harvard Business Reviewが発表する「The Best-Performing CEOs in the World 2018」にて9位に選定
- 10月 • シスメックス マレーシアが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2018」に選定
- 10月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work」（韓国トップ100）に選定（シスメックス コリア）
- 5月 • 平成30年春の褒章において「紫綬褒章」を受章
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2018」に選出（シスメックス アメリカ）
- 3月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の2回目の選定
- 2月 • 平成29年度 第21回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第21回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2017」）

2017年

- 11月 • 超解像蛍光顕微鏡が「2017年度 グッドデザイン金賞」を受賞
- 11月 • Harvard Business Reviewが発表する「The Best-Performing CEOs in the World 2017」にて18位に選定
- 10月 • シスメックス アジア・パシフィックが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2017」に選定
- 8月 • 「Forbes The World's Most Innovative Companies 100社（27位）」に選定
- 6月 • 「Work & Family in 2017」を受賞（シスメックス ヨーロッパ）
- 4月 • 平成29年度文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞













- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2017」に選出（シスメックス アメリカ）
- 2月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の認定
- 2月 • 平成28年度 第20回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第20回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2016」）
- 1月 • 2017年版「Global 100」（世界で最も持続可能な100社）に3回目の選出

2016年

- 11月 • 平成28年度近畿地方発明表彰において、「文部科学大臣賞」1件と「発明奨励賞」3件を受賞
- 11月 • シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス マレーシアが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2016」に選出
- 10月 • 日経「人を活かすランキング」にて27位/462社
- 9月 • 女性活躍推進法「えるぼし」（最高位の3段階目）認定
- 9月 • 当社の自動血液凝固測定装置が「第5回分析機器・科学機器遺産」に認定
- 9月 • Forbes Japanの「日本を動かす経営者」で5位、「世界で最もイノベティブな企業」28位にランキング
- 8月 • 「世界初・糖鎖を使った肝線維化診断システムの実用化」において、第14回産学官連携功労者表彰「経済産業大臣賞」を受賞
- 6月 • シスメックス国際試薬 小野工場が小野市防火協会優良事業所賞表彰
- 5月 • Confirmit社「ACE-Award」（Voice of Customer部門、Contact Center部門）を受賞（シスメックス アメリカ）
- 3月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work」に選定（シスメックス ヨーロッパ）
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2016」に選出（シスメックス アメリカ）

環境データ

マテリアルバランス

INPUT				
		2016年度	2017年度	2018年度
	電気使用量 (千kWh)	37,403	39,701	41,959
	都市ガス (千m ³)	1,474	600	1,097
	LPG (t)	21	24	19
	LNG (t)	0	0	57
	重油 (kL)	0	35	0
	灯油 (kL)	31	29	29
	軽油 (kL)	21	17	38
	国内社用車ガソリン (kL)	734	689	619
	国内社用車軽油 (kL)	25	23	18
	水使用量 (千m ³)	406	418	449
	OA用紙 (t)	42	45	38
	PRTR (t)	0	0	0



OUTPUT				
		2016年度	2017年度	2018年度
	温室効果ガス排出量 (事業所) (t-CO ₂)	22,760	22,187	22,349
	温室効果ガス排出量 (国内社用車) (t-CO ₂)	1,768	1,661	1,483
	廃棄物等総排出量 (t)	2,106	1,482	2,255
	リサイクル率 (%)	91	89	76
	水排出量 (千m ³)	189	273	292
	PRTR (t)	0	0	0

詳細はこちらをご覧ください。(PDF形式 / 871KB) [📄](#)

シスメックス・エコビジョン2025 長期環境目標に関するデータ

目標		2017 年度	2018 年度	原単位・算定方法など
CO ₂ 排出量の削減※	機器製品使用時において15%削減	+1%	+3%	機器製品使用時におけるCO ₂ 総排出量÷機器生産台数
	事業活動において50%削減	-17%	-21%	事業活動におけるCO ₂ 総排出量÷連結売上高
	出荷物流において15%削減	-17%	+1%	出荷物流におけるCO ₂ 総排出量÷シスメックス単体売上高
水消費量の削減※	機器製品使用時において15%削減	+1%	+3%	機器製品使用時における総排出量÷機器生産台数
	事業活動において15%削減	-8%	-7%	事業活動における水の総使用量÷連結売上高
資源循環の推進	事業活動においてリサイクル率93%以上	89%	76%	リサイクル排出量÷総事業活動における廃棄物総排出量

※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

▶ [非財務目標はこちらをご覧ください。](#)

環境パフォーマンスデータ

項目	内容		単位	対象範囲 <small>(※1)</small>	
INPUT	エネルギー消費量	非再生可能エネルギー消費量	電力(非再生可能)	千kWh	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所
			都市ガス	千m ³	
			LPG	t	
			LNG	t	
			重油	kL	
			灯油	kL	
		軽油	kL		
	再生可能エネルギー消費量	電力(再生可能)	千kWh		
	総消費量		GJ		
	その他非再生可能エネルギー消費量	ガソリン(社用車)	kL	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
軽油(社用車)					
水使用量	地下水	千m ³	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所		
	水道				
	総使用量				
OA用紙使用量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場		
PRTRインプット		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所		
OUTPUT	温室効果ガス排出量 スコープ1 <small>(※3)</small>	固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 ただし、社用車は日本国内に限る	
		社用車からのCO ₂ 排出量			
		総排出量			
	温室効果ガス排出量 スコープ2 <small>(※3)</small>	総排出量	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所	
	温室効果ガス排出量 スコープ3 <small>(※3)</small>	物流におけるCO ₂ 排出量	t-CO ₂	シスメックス株式会社	
	廃棄物の排出量	総排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場	
		総排出量(国内営業拠点含まない)			
		マテリアルリサイクル廃棄物			
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物			
		総廃棄物処分量			
マテリアルリサイクル率		%	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場		
リサイクル率(エネルギー回収を含む)					
水排出量	総排出量	千m ³	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所		
PPTRアウトプット	排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所		
	移動量				

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	カバー率 ^(※2)	算定方法など
	35,779	37,233	37,193	38,399	40,670	85%	
	852	1,544	1,474	600	1,097		
	15	19	21	24	19		
	0	0	0	0	57		
	0	0	0	35	0		
	70	35	31	29	29		
	19	19	21	17	38		
	209	243	210	1,302	1,288		
	395,043	439,654	440,124	414,136	461,370		総消費量 = $\Sigma(\text{エネルギー種別消費量} \times \text{換算係数}^{※4})$
	778	750	734	689	619	37%	日本国内における社用車のガソリン消費量
	20	24	25	23	18		日本国内における社用車の軽油消費量
	51	50	58	53	65	85%	自家用地下水使用量
	317	341	348	365	384		上水使用量、工業用水使用量
	368	391	406	418	449		
	49	44	42	45	38	37%	
	0	0	0	0	0		化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR取扱量
	2,237	3,757	3,559	1,749	2,964	85%	排出量 = $\Sigma(\text{燃料使用量} \times \text{CO}_2\text{排出係数}^{※4})$
	1,856	1,802	1,768	1,661	1,483		社用車からのCO ₂ 排出量
	4,093	5,559	5,327	3,410	4,447		
	19,195	20,278	19,201	20,438	19,385	85%	排出量 = $\Sigma(\text{購入電力量} \times \text{CO}_2\text{排出係数}^{※5})$
	-	-	19,573	16,711	21,571	-	排出量 = $\Sigma(\text{輸送重量} \times \text{輸送距離} \times \text{CO}_2\text{排出原単位}^{※6})$ 日本向け: 国内物流倉庫から国内顧客等(支店・営業所を含む)までの物流CO ₂ 排出量 海外向け: 国内物流倉庫から海外各地域の港・空港までの物流CO ₂ 排出量
	1,557	1,701	2,106	1,482	2,255	83%	廃棄物排出量 = 一般廃棄物排出量 + 産業廃棄物排出量
	1,419	1,535	1,436	1,361	2,117		
	788	986	814	1,044	1,264		廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量 燃料化(RPFなど)したものも含む
	1,283	1,411	1,309	1,213	1,617		廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものの量
	137	124	128	148	500		総廃棄物処分量 = 総排出量 - リサイクル(エネルギー回収を含む) 廃棄物
	56	64	57	77	60		
	90	92	91	89	76		
	164	192	189	273	292	85%	
	0	0	0	0	0	37%	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量
	0	0	0	0	0		化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量

項目	内容		単位	対象範囲 <small>(※1)</small>
コンプライアンス	環境法規制の違反	高額罰金の総額	億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所
		罰金以外の制裁措置総件数	件	
	重大な化学物質の漏出・紛失	総件数	件	
		総漏出量	t	

(※1) 各年度のデータは当該年度の対象範囲による実績を示す。2018年度対象の詳細は下記の通り

国内主要事業所：シスメックス株式会社（本社・テクノパーク・ソリューションセンター）

国内機器工場：シスメックス株式会社（加古川工場・アイスクエア）、シスメックスメディカ、シスメックスRA

国内試薬工場：シスメックス国際試薬（小野工場・西神工場）

国内営業拠点：シスメックス株式会社（東京支社・他20拠点）

国内その他事業所：シスメックス株式会社（研究開発センター・他5拠点）

海外主要拠点：シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

海外生産工場：シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ブラジル、シスメックス リージョン・アメリカ、シスメックス インディア、

シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス パルテック、シスメックス アイノスティクス、ハイフェン バイオメド

海外その他事業所：シスメックス 台湾、シスメックス コリア

(※2) カバー率は、会社別売上高を基に算出

(※3) 温室効果ガス排出量 スコープ1：企業の施設や工場から直接排出される温室効果ガス

温室効果ガス排出量 スコープ2：エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガス

温室効果ガス排出量 スコープ3：商品・サービスに関わる企業群（サプライチェーン）全体から排出される温室効果ガス

(※4) 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく換算係数もしくは排出係数

(※5) 日本：地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別の排出係数


海外：IEA, Emissions from Fuel Combustionの排出係数（2018年度より当該係数を使用）

(※6) 「ロジスティクス分野におけるCO₂排出量算定方法 共同ガイドライン」に基づく排出原単位


	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	カバー率 ^(※2)	算定方法など
	0	0	0	0	0	85%	
	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0		

第三者保証

「シスメックス サステナビリティデータブック 2019」では、開示しているデータの信頼性を向上させるため、環境パフォーマンスデータ（下表）について、デロイトトーマツサステナビリティ株式会社の保証を受けております。



Deloitte.
デロイトトーマツ

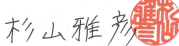


トーマツ.

独立した第三者保証報告書

2019年8月28日

シスメックス株式会社
代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒 殿

デロイトトーマツ サステナビリティ株式会社
東京都千代田区丸の内三丁目2番3号
代表取締役 

デロイトトーマツ サステナビリティ株式会社（以下「当社」という。）は、シスメックス株式会社（以下「会社」という。）が作成した「シスメックス サステナビリティデータブック 2019」（以下「報告書」という。）の第三者保証の頁に記載されている2018年度の環境パフォーマンスデータ（以下「環境定量情報」という。）について、限定的保証業務を実施した。

会社の責任
当社は、会社が採用した算定及び報告の基準（報告書の環境定量情報に注記）に準拠して環境定量情報を作成する責任を負っている。また、CO₂の算定は、排出係数と数値データの決定に利用される科学的知識が不完全である等の理由により、固有の不確実性の影響下にある。

当社の独立性と品質管理
当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、国際会計士倫理基準審議会の「職業会計士の倫理規程」が定める独立性及びその他の要件を遵守した。また、当社は、国際品質管理基準第1号「財務諸表の監査及びレビュー並びにその他の保証及び関連サービス業務を行う事務所の品質管理」に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含め、包括的な品質管理システムを維持している。

当社の責任
当社の責任は、当社が実施した手続及び当社が入手した証拠に基づいて、環境定量情報に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「国際保証業務基準 9000 過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」（国際監査・保証基準審議会）、「国際保証業務基準 3410 温室効果ガス報告に対する保証業務」（国際監査・保証基準審議会）及び「サステナビリティ情報審査実務指針」（サステナビリティ情報審査協会）に準拠して、限定的保証業務を実施した。
当社が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、プロセスの観察、文書の閲覧、分析的手続、算定方法及び報告方針の適切性の検討、報告書の基礎となる記録との照合又は調整、及び以下を含んでいる。
・ 会社の見積り方法が、適切であり、一貫して適用されていたかどうかを評価した。ただし、手続には見積りの基礎となったデータのテスト又は見積りの再実施を含めていない。
・ データの網羅性、データ収集方法、原始データ及び現場に適用される仮定を評価するため、事業所の現地調査を実施した。
限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務に対する手続と比べて、その種類と実施時期が異なり、その実施範囲は狭い。その結果、当社が実施した限定的保証業務で得た保証水準は、合理的保証業務を実施したとすれば得られたであろう保証水準ほどには高くない。

限定的保証の結論
当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、環境定量情報が、会社が採用した算定及び報告の基準に準拠して作成されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

以上
Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited

保証対象：

環境パフォーマンスデータ	2018年度実績
温室効果ガス排出量 スコープ1※1 (固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量)	2,964 t-CO ₂
温室効果ガス排出量 スコープ2※1	19,385 t-CO ₂
温室効果ガス排出量 スコープ3※1 (物流におけるCO ₂ 排出量)	21,571 t-CO ₂
水使用量※1	449 千m ³
国内産業廃棄物排出量※1※2	563 t

※1 各項目の対象範囲および算定方法などはP.76～P.79参照

※2 対象範囲：国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場
「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく排出量

社会性データ

お客様関連

項目	2016年度	2017年度	2018年度	関連記事
シスメックスカスタマーサポートセンターへのお問い合わせ（件）	88,909	89,583	86,906	詳細
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ シスメックス アメリカによる調査	9.2	9.2	9.2	詳細
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ IMV ServiceTrakによる調査	9.3	9.29	9.37	詳細

従業員関連

従業員関連（シスメックス株式会社の実績数値）

項目		2016年度	2017年度	2018年度	関連記事
新卒採用	合計（名）	68	64	76	詳細
	男性（名）	38	32	44	
	女性（名）	30	32	32	
	うち外国人（名）	15	5	8	
中途採用	合計（名）	73	30	42	詳細
	男性（名）	56	23	36	
	女性（名）	17	7	6	
	うち外国人（名）	4	2	0	
離職※ ※ 正社員（定年退職除く）	離職者（名）	74	101	87	-
	離職率（%）	3.22	4.34	3.78	
障がい者雇用※ ※ シスメックスハーモニーの設立に伴い、2017年度以降は国内グループ会社の数字を追加	雇用者数（名）	54	51 (国内グループ会社 69)	50 (国内グループ会社 76)	詳細
	雇用率（%）	1.94	1.84 (国内グループ会社 2.04)	1.81 (国内グループ会社 2.21)	
定年退職者再雇用	希望者（名）	22	38	18	詳細
	再雇用者（名）	22	38	18	
	再雇用率（%）	100	100	100	
育児・介護理由の退職者再雇用	新規登録者（名）	5	3	2	詳細
	再雇用者（名）	0	0	1	
	再雇用率（%）	0	0	50	

正社員への登用実績	契約社員（名）	7	16	21	詳細
	派遣社員（名）	4	10	9	
	合計（名）	11	26	30	
労働災害	労災による死亡（名）	0	0	0	詳細
	労災によるけが（名）	3	2	5	
	労働災害度数率	0.53	0.35	0.89	
	労働災害強度率	0.09	0.05	0.06	
	延べ労働損失日数（日）	494	308	325	
	延べ実労働時間数（時間）	5,641,249	5,635,447	5,612,498	
有給休暇	付与日数（日）	51,667	49,177	52,116	詳細
	取得日数（日）	31,305	32,063	35,232	
	取得率（%）	60.6	65.2	67.6	
産前産後休職利用者（名）		48	39	41	詳細
育児休業利用者	女性（名）	56	32	40	
	男性（名）	3	1	3	
育児のための勤務時間短縮制度利用者	女性（名）	47	58	56	
	男性（名）	0	1	2	
介護休業利用者	女性（名）	2	5	1	
	男性（名）	0	0	1	
育児休業からの復帰率	女性（%）	98	97	99	
	男性（%）	100	100	100	
積立有給休暇利用者（名）		78	104	130	
在宅勤務利用者（名）		-	100	112	
フレックスタイム利用者（名）		1,949	2,086	2,008	
社内託児所利用児童	年間延べ（名）	32	34	32	
	年度末時点（名）	26	30	26	
研修実績	従業員1人当たり費用（円）	108,000	103,000	109,000	詳細
	従業員1人当たり時間（時間）	19.4	15.4	16.6	
	研修プログラム数（個）	23	14	20	
インターンシップ生受け入れ人数	合計（名）	135	128	125	詳細
	うち外国人（名）	1	9	6	

注) 定義の変更に伴い、過去の開示データから一部修正しています。

	2016年度	2017年度	2018年度
従業員数（名）※ ¹	2,083 (497)	2,046 (504)	2,049 (501)
平均年齢（歳）	40.5	40.7	41.1
平均勤続年数（年）	11.6	12.0	12.3
平均年間給与（千円）※ ²	7,853	7,826	7,822

※¹ 従業員数はシスメックス株式会社から社外への出向者を除き、社外からシスメックス株式会社への出向者を含む就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外数で記載

※² 平均年間給与は、基準外賃金および賞与を含む。

従業員関連（シスメックスの実績値）

項目		2016年度	2017年度	2018年度	関連記事
女性管理職比率 （課長級以上）	シスメックス株式会社（％）	8.8	8.6	8.1	詳細
	グループ全体（％）	16.2	15.2	15.2	

項目			2017年度		2018年度	
グループ 男女比率	日本	男性（％）	59.1	正社員、受入出向者、有期雇用 （役員、派遣社員除く）	58.4	正社員、受入出向者、有期雇用 （役員、派遣社員除く）
		女性（％）	40.9		41.6	
	米州	男性（％）	63.7	正社員、受入出向者、有期雇用、役員	61.1	正社員、受入出向者、有期雇用、役員
		女性（％）	36.3		38.9	
	EMEA※	男性（％）	55.7		55.2	
		女性（％）	44.3		44.8	
	中国	男性（％）	65.7		66.0	
		女性（％）	34.3		34.0	
	アジア・パシフィック	男性（％）	61.4		61.9	
		女性（％）	38.6		38.1	

項目			2017年度		2018年度		
グループ 従業員数	日本	男性（名）	2,077	正社員、受入出向者、有期雇用 （役員、派遣社員除く）	2,071	正社員、受入出向者、有期雇用 （役員、派遣社員除く）	
		女性（名）	1,440		1,475		
	米州	男性（名）	740	正社員、受入出向者、有期雇用、役員	731	正社員、受入出向者、有期雇用、役員	
		女性（名）	422		465		
	EMEA※	男性（名）	1,318		1,355		
		女性（名）	1,049		1,099		
	中国	男性（名）	412		452		
		女性（名）	215		233		
	アジア・パシフィック	男性（名）	474		516		
		女性（名）	298		318		
	合計（名）		8,445				8,715

※ 欧州・中東・アフリカ地域

社会貢献活動関連

項目	2017年度	2018年度
社会貢献支出額 （シスメックス株式会社）	約5億1,000万円	約5億3,000万円

2018年度実績データ

ガバナンスデータ

▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。

医療機関等への資金提供等に関する情報[※]

日本

(単位：千円)

種類	詳細	2015年度	2016年度	2017年度
研究費開発費等	大学や研究機関等との共同研究または委託研究、公的規制のもとで実施される臨床試験、治験、製造販売後臨床試験、製造販売後調査、および企業が独自に行う調査等の費用が含まれます。	233,911	132,347	297,106
学術研究助成費	医療技術の学術振興や研究助成を目的として行われる奨学寄付金、一般寄付金、および学会等の会合開催を支援するための学会寄付金、学会共催費が含まれます。	120,520	1,950,674	312,138
原稿執筆料等	医学・薬学に関する情報、自社製品の適正使用等に関する情報等を提供するための講演や原稿執筆、コンサルティング業務の依頼に対する対価（報酬）等が含まれます。	43,264	39,246	42,990
情報提供関連費	医療関係者に対する自社製品の適正使用、安全使用のために必要な講演会、模擬実技指導、説明会等の費用が含まれます。	162,655	157,657	233,292
その他の費用	社会的儀礼としての接遇等の費用が含まれます。	37,144	21,374	35,902
合計金額		597,494	2,301,298	921,428

米国 サンシャイン法

種類		2016年	2017年	2018年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	242	477	667
	金額	US \$137,658	US \$99,210	US \$152,027
研究	件数	21	26	9
	金額	US \$209,370	US \$342,614	US \$228,092

フランス サンシャイン法

種類		2016年	2017年	2018年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	226	346	351
	金額	€ 34,611	€ 53,700	€ 27,603
役務に対する報酬	件数	1	9	7
	金額	€ 4,000	€ 51,776	€ 58,500
契約	件数	12	16	19

ベルギー サンシャイン法

種類		2016年	2017年	2018年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	-	6	7
	金額	-	€ 11,563	€ 9,261

※ 当情報は、行政当局または医療機関等による確認等を通じ修正されることがあります。

※ 過去の開示データから一部修正しています。

公開対象

米国

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、研究）

- 米国の医師
- 米国の教育研究病院

フランス

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、役務に対する報酬、契約）

- フランスの医師、医療専門家、医学生
- フランスの医療関連法人（教育機関、企業等）

フランスのサンシャイン法では、契約金額は公開対象ではありません。

ベルギー

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品）

- ベルギーの医療従事者
- ベルギーの医療関係の団体
- ベルギーの患者団体

▶ その他のガバナンスデータについてはこちらをご覧ください。

情報開示体系

非財務情報	財務情報
統合報告書「シスメックスレポート」(年度報告書) 中長期的な価値創造の観点から財務・非財務情報を簡潔にまとめた統合報告書を作成しています。	
CSR (企業の社会的責任) サイト サステナビリティへの取り組みについて詳細を開示しています。  ・サステナビリティデータブック (年度報告書) PDF	IR情報サイト 財務情報や株式・株主情報を詳細に開示しています。 ・有価証券報告書 ・決算短信 など 
コーポレート・ガバナンスに関する報告書	

編集方針

「サステナビリティデータブック」は、統合報告書「シスメックスレポート」(中長期的な価値創造の観点から財務・非財務情報を簡潔にまとめた報告書)を補完するもので、シスメックスの社会的責任(CSR)に関する詳細情報を記載しています。「シスメックスレポート」とともに、ステークホルダーの皆様との対話を深め、シスメックスの価値を総合的に判断いただくことを目的として、2019年度から発行*しています。
※2018年度までは「シスメックス あんしんレポート」を発行。

参考にしたガイドライン

- ・GRI (Global Reporting Initiative)
「GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

対象組織

原則としてシスメックス(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。最新情報については、CSRサイトのCSRニュースでお伝えします。

発行時期

2019年8月 ※英語版は9月発行予定

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進部
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
Tel 078-265-0500 (代表) Fax 078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックスに関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。従って、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上を予めご承知いただきますようお願いいたします。

シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp